

環境科学実験

担当教員 名城 敏・新垣 武

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 実験実習

単位数 1.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

環境科学の履修過程において環境の現状把握に必要な現況観測は必要不可欠な事項だと考えられる。環境科学実験においては環境要素の中でも最も基本的な項目である水質、騒音についての測定手法を修得するとともに結果の取りまとめ方法を学ぶ。また、今後の環境問題とその対策を考える上で重要な新エネルギーに関連する実験を行う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義概要
2	水質分析、騒音測定、新エネルギー関連の実験
3	〃
4	〃
5	〃
6	〃
7	〃
8	〃
9	〃
10	〃
11	〃
12	〃
13	〃
14	〃
15	総括
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席状況、レポートなどを総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは特に指定しない。参考文献は適宜紹介する。また、参考資料は適宜配布する。

【参考文献】

環境統計学 I

担当教員 友知 政樹

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

本講義の目的は、様々な統計指標やグラフ、さらには基本的統計量などの読み方や算出方法などについて学ぶことである。具体的には、経済学部・地域環境政策学科で学んでいく際に重要な統計指標の理解を含め、記述統計学の基礎概念を全般的に学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	様々な統計指標とグラフ (1)
3	様々な統計指標とグラフ (2)
4	様々な統計指標とグラフ (3)
5	基本統計量 (1) 代表値① (平均値、中央値、最頻値)
6	基本統計量 (2) 代表値② (平均値、中央値、最頻値)
7	基本統計量 (3) 分散、標準偏差、変動係数
8	基本統計量 (4) 分散、標準偏差、変動係数
9	基本統計量 (5) 度数分布表、ヒストグラム
10	基本統計量 (6) 度数分布表、ヒストグラム
11	基本統計量 (7) 相関関係と因果関係、相関係数、擬似相関
12	基本統計量 (8) 相関関係と因果関係、相関係数、擬似相関
13	基本統計量 (9) クロス集計
14	総まとめ
15	最終試験
16	

【履修上の注意事項】

環境統計学IおよびIIの両方を履修することが望ましい。

【評価方法】

出席状況、小テスト、最終試験などにより総合的に評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献】

・統計学の基礎、河野光雄・友知政樹共著、牧野書店 (¥1,900+税)。
 ・統計でウソをつく法 (数式を使わない統計学入門) ダレル・ハフ著、高木秀玄訳、講談社 (¥880+税)。

環境統計学Ⅱ

担当教員 友知 政樹

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

本講義の目的は、統計的データの分析に必要な確率論の基礎や、推定・検定統計学、さらには相関係数や単回帰分析の手法の基本的概念を習得することである。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	記述統計学の復習 (1)
3	記述統計学の復習 (2)
4	確率論の基礎 (1)
5	確率論の基礎 (2)
6	標本調査と中心極限定理
7	データの標準化と標準正規分布
8	点推定と区間推定 (1)
9	点推定と区間推定 (2)
10	統計的仮説の検定 (1)
11	統計的仮説の検定 (2)
12	相関係数、単回帰分析
13	単回帰分析、回帰係数の検定
14	総まとめ
15	最終試験
16	

【履修上の注意事項】

環境統計学IおよびⅡの両方を履修することが望ましい。

【評価方法】

評価方法 出席状況、小テスト、最終試験などにより総合的に評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献】

・統計学の基礎、河野光雄・友知政樹共著、牧野書店（¥1,900+税）。・統計でウソをつく法（数式を使わない統計学入門）ダレル・ハフ著、高木秀玄訳、講談社（¥880+税）。

基礎演習

担当教員 新垣 武

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

学生間及び教員とのコミュニケーションの場を提供し、相互の理解を深めるとともに、基本的な読解力、情報収集能力、分析力、取りまとめ力、及び基本的なプレゼンテーションの能力をつける。

【授業の展開計画】

受講生は、各自で、興味のあるジャンル（小説を除く）の本を読み、レポートと要旨を書いて提出する。要旨は印刷し、クラスの全員に配布する資料（A4サイズ2枚程度）として準備しておく。

それを、発表の時（講義中）に配布し、クラス全員で資料の文章中の誤字、脱字、及び訂正すべき箇所などを点検する。点検後、要旨をもとに、発表者には、10-15分間の制限時間内で、読んだ本の内容や感想・意見などについて発表してもらう。

発表後に、発表内容についての質疑・応答、及び討論を行う。

発表要旨の基本的な構成例

- 1) 図書名（資料名）
- 2) 著者
- 3) 発表年次
- 4) 図書の選定理由
- 5) テーマ
- 6) 概要
- 7) 感想及び意見

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席状況とレポートにもとづき行う。

【テキスト】

テキストは特に指定しない

【参考文献】

参考文献は適宜紹介する。また、参考資料は適宜配布する。

基礎演習

担当教員 島袋 伊津子

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

論文やレポート、レジュメの書き方を学ぶ。
プレゼンテーション能力を高める。

【授業の展開計画】

前期は、与えられた文章についてWordを使ってレジュメを作成し、報告する。
後期は、与えられたテーマについて小論文を作成し、報告する。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス	17	小論文作成
2	レジュメの書き方	18	報告
3	レジュメの書き方	19	小論文作成
4	レジュメの書き方	20	報告
5	資料収集・リサーチ	21	小論文作成
6	資料収集・リサーチ	22	報告
7	資料作成	23	小論文作成
8	資料作成	24	報告
9	資料作成	25	小論文作成
10	報告・ディスカッション	26	報告
11	報告・ディスカッション	27	小論文作成
12	報告・ディスカッション	28	報告
13	報告・ディスカッション	29	小論文作成
14	報告・ディスカッション	30	報告
15	報告・ディスカッション	31	
16	小論文の書き方		

【履修上の注意事項】

特になし。

【評価方法】

2/3以上の出席、報告・レポート提出を単位取得の最低条件とする。

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

適宜指示する。

基礎演習

担当教員 山川（矢敷） 彩子

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

基礎演習は、新入生と教員がコミュニケーションを深める場であり、講義には次のねらいがある。一年生が大学生としての必要なスキル（情報収集能力・読解力・文章作成能力・プレゼンテーション能力）を養うことである。最終的には、自分の興味がある分野のレポートを作成し、レジメを作成した上、コンピュータプレゼンテーションをすることを旨とする。

【授業の展開計画】

基本的に以下のスケジュールで実施するが適宜内容と順番は変更することがある。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス・自己紹介等	17	レジメ作成の仕方(1)
2	交流ゲーム(1)	18	レジメ作成の仕方(2)
3	グループトーク(1)	19	レジメの提出
4	グループトーク(2)	20	パワーポイントプレゼンテーションの仕方
5	図書館オリエンテーション	21	パワーポイント作成(1)
6	フィールドワーク(1)	22	パワーポイント作成(2)
7	フィールドワーク(2)	23	プレゼンテーションと質疑応答(1)
8	フィールドワークレポート提出	24	プレゼンテーションと質疑応答(2)
9	交流ゲーム(2)	25	プレゼンテーションと質疑応答(3)
10	レポート作成の仕方(1)	26	プレゼンテーションと質疑応答(4)
11	レポート作成の仕方(2)	27	プレゼンテーションと質疑応答(5)
12	レポート作成の仕方(3)	28	対人能力セミナー
13	レポート作成の仕方(4)	29	総括
14	総括	30	予備日
15	予備日	31	
16	ガイダンス・レポートの提出		

【履修上の注意事項】

欠席する場合には、事前に必ず連絡をすること。メールによる連絡を受け付ける。
 二年次以降の学生が登録を希望する場合は、事前に相談すること。

【評価方法】

単位取得には、3分の2以上の出席、課題（レポート、レジメ）の提出、およびプレゼンテーションの実施が必須である。評価は、ゼミにおける発言の内容やレポート、プレゼンテーションの内容により総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは指定しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

基礎演習

担当教員 上江洲 薫

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

学生間及び教員とのコミュニケーションの場を提供し、相互の理解を深めるとともに、文献や資料などの基本的な読解力、情報収集能力、分析力、読図力、統括力および現場の見る目、基本的なプレゼンテーションやの能力をつける。

【授業の展開計画】

前期は、①受講生の相互理解を図るため、受講生間での聞き取り調査、②レジュメの書き方、③レポートの作成方法、④環境・地域経済に関する書籍の一部分をグループで要約し、報告・ディスカッションを行う。後期は、①受講生が各自で、興味のあるジャンル（小説を除く）の本を読み、その内容を報告・ディスカッションを行う。②地図の読み方、また、読図力を活かして、巡検（野外実習）を行い、地域性および地域資源の発見を試みる。③「環境政策」か「地域経済政策」のいずれかをテーマにして、政策提言をグループで行う。

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1 前期ガイダンス・学内案内等 | 17 後期ガイダンス |
| 2 聞き取り調査①項目作成 | 18 書籍の報告・ディスカッション |
| 3 聞き取り調査②調査実施 | 19 書籍の報告・ディスカッション |
| 4 レジュメの書き方 | 20 書籍の報告・ディスカッション |
| 5 図書館ガイダンス | 21 書籍の報告・ディスカッション |
| 6 聞き取り調査③報告① | 22 地形図の読図 |
| 7 聞き取り調査④報告② | 23 レポートの作成方法（野外調査版） |
| 8 レポートの作成方法、書籍報告の説明 | 24 巡検（宜野湾市内） |
| 9 書籍の報告・ディスカッション①作成 | 25 Power Pointの使い方 |
| 10 書籍の報告・ディスカッション②作成 | 26 グループごとの資料作成① |
| 11 書籍の報告・ディスカッション④報告 | 27 グループごとの資料作成② |
| 12 書籍の報告・ディスカッション⑤報告 | 28 政策提言発表・ディスカッション① |
| 13 書籍の報告・ディスカッション⑥報告 | 29 政策提言発表・ディスカッション② |
| 14 書籍報告のレポート作成① | 30 政策提言発表・ディスカッション③ |
| 15 書籍報告のレポート作成② | 31 就職関連対人セミナー |
| 16 まとめ | 32 まとめ |

【履修上の注意事項】

巡検では4・5校時で連続講義になることある。初回のガイダンスには発表の順番を決定するため必ず出席して下さい。

【評価方法】

成績評価は出席・講義への参加姿勢(30点)やレポート・発表(40点)、作業物の提出(30点)で判断する。

【テキスト】

特に指定しない。参考資料は適時配布する。

【参考文献】

伊藤義之(2005)『はじめてのレポート』, 嵯峨野書院。学習技術研究会編(2002)『知へのステッパー大学生からのスタディ・スキルズ』, くろしお出版

基礎演習

担当教員 砂川 かおり

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

大学生として必要な5つの力、「読む力」、「考える力」、「聞く力」、「書く力」、「話す力」を訓練します。

【授業の展開計画】

前期：①自分自身を表現すること、②自分と（宜野湾市等の）自然環境・社会環境との繋がりを確認するために、小論文、調べ物学習などを行う。これらの作業を通して、コミュニケーション能力、読解力、情報収集・分析力を涵養する。

後期：自ら問題を発見し、その現状（と解決策）について調査し、発表する。可能であれば、解決策を実行し、その結果を発表する。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

2/3以上の出席、発表・レポート提出を単位取得の最低条件とする。出席状況、課題、ディスカッションへの参加状況に基づき総合的に評価します。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

随時案内します。

近代沖縄経済史

担当教員 一來間 泰男

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

沖縄の歴史を、経済に視点をあてながら、概説していく。沖縄の歴史は、日本史の知識では理解できるものではなく、かなりの独自性をもっている。そして、研究の水準も高くない。いろいろと議論すべきことが多い。それを、根拠資料を示しながら、講義者独自の体系にして講義したい。

学習内容をできるだけシンプルにして、質疑応答の時間を確保したい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	4月 5日 講義の内容と進め方
2	4月12日 原始時代（10世紀まで）
3	4月19日 按司時代（グスク時代、10-14世紀）
4	4月26日 琉球王国の成立と対外交易（15世紀）
5	5月 3日 公休日
6	5月10日 琉球王国の確立と動揺
7	5月17日 薩摩藩支配下琉球の政治構造
8	5月24日 薩摩藩支配下琉球の経済構造
9	5月31日 琉球近世末期の農業と社会
10	6月 7日 琉球処分と旧慣存続
11	6月14日 土地整理とそま山処分
12	6月21日 そてつ地獄期の経済
13	6月28日 沖縄救済論議と振興計画
14	7月12日 準戦時・戦時体制下の経済
15	7月19日 期末テスト
16	

【履修上の注意事項】

- ①居眠りは許さない（少しはいい）。おしゃべりは許さない（絶対にだめ）。
- ②携帯電話の電源は切っておくこと。
- ③出席は毎回とる。

【評価方法】

出席状況と、3回実施する豆テスト（10点×3＝30点）、1回実施する本テスト（70点）の合計で判定する。

【テキスト】

テキストは指定せず、毎回プリントを配り、それにそって講義する。

【参考文献】

その都度、紹介する。

経済数学 I

担当教員 根路銘 もえ子

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

本講義では、経済学で使われる数学を初歩の基本的課題から応用分野までを解説する。練習問題を解くことにより、経済学に必要な数学の知識を身につける。

「経済数学I」では、行列や行列式等の線形代数について学習する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	いろいろな行列
3	行列の計算法
4	線形空間(1)
5	線形空間(2)
6	逆行列
7	逆行列の計算法
8	行列式
9	行列式の計算法
10	連立方程式の解法(1)
11	連立方程式の解法(2)
12	固有値
13	対角化
14	経済分析と線形代数(1)
15	経済分析と線形代数(2)
16	

【履修上の注意事項】

地域環境政策学科・1年次対象科目。講義は段階的に進めるので、講義内容を理解してもらうためにも出席を重視する。1年次の選択科目であるため1年次優先。空きがあれば、他年次の学生の登録も可能とする。

【評価方法】

出席状況、講義中の問題解答、試験を総合的に評価する。

【テキスト】

講義中に板書を行う。また、練習問題を配布する。

【参考文献】

三土修平, 「初歩からの経済数学(第2版)」, 日本評論社, 1996.

経済数学Ⅱ

担当教員 根路銘 もえ子

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

本講義では、経済学で使われる数学を初歩の基本的課題から応用分野までを解説する。練習問題を解くことにより、経済学に必要な数学の知識を身につける。

「経済数学Ⅱ」では、経済学で扱われる関数について学び、微分法の基礎を習得する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	いろいろな関数と逆関数
3	指数関数と対数関数
4	極限值
5	導関数
6	微分(1)
7	微分(2)
8	関数の増減(1)
9	関数の増減(2)
10	偏微分
11	高階偏導関数
12	極大値・極小値
13	全微分
14	制約付最大化問題
15	ラグランジュ乗数法
16	

【履修上の注意事項】

地域環境政策学科・1年次対象科目。講義は段階的に進めるので、講義内容を理解してもらうためにも出席を重視する。1年次の選択科目であるため1年次優先。空きがあれば、他年次の学生の登録も可能とする。

【評価方法】

出席状況、講義中の問題解答、試験を総合的に評価する。

【テキスト】

講義中に板書を行う。また、練習問題を配布する。

【参考文献】

三土修平, 「初歩からの経済数学(第2版)」, 日本評論社, 1996.

経済地理 I

担当教員 小川 護

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

現代日本および世界における産業経済のありかたに「地域」という視点から分析を加えそこに内在する地域的な構造と問題点の様態を把握するとともに、その形成過程に関与する諸要因の織りなす機構を明らかにしようというのが本講義の目標である。経済地理 I では、経済地理学の課題、方法、視角について概観したあと、日本および沖縄、そして世界の農業地域の形成と構造および農業立地論について考察していく予定である。適宜、関連資料の配付、ビデオ教材等の視聴覚教材も利用する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	経済地理学の課題・方法・視角(1)
2	経済地理学の課題・方法・視角(2)
3	日本の農業(1)
4	日本の農業(2)
5	沖縄の農業
6	世界の農業地域(1)
7	世界の農業地域(2)
8	世界の農業地域(3)
9	世界の農業地域(4)
10	農業立地論
11	世界の地域開発
12	日本の地域開発
13	農業と食糧問題
14	農業と環境問題
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

追試・再試は原則としておこなわない。試験は、配布プリント、自筆ノートのみ持ち込み可能で試験を行う。

【評価方法】

出席状況とレポートおよび試験結果で総合的に判断する。

【テキスト】

帝国書院『新詳高等地図』1800円、

【参考文献】

授業の中で適宜紹介する。

経済地理Ⅱ

担当教員 小川 護

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

現代日本および世界における産業経済のありかたに「地域」という視点から分析を加えそこに内在する地域的な構造と問題点の様態を把握するとともに、その形成過程に関与する諸要因の織りなす機構を明らかにしようというのが本講義の目標である。経済地理Ⅱでは、日本と世界の工業地域について学習する。とくに、工業の立地変動、についても講義する予定である。さらに、都市地理学、商業地理学についても触れて行きたいと思っている。適宜、関連資料の配付、ビデオ教材等の視聴覚教材も利用する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	工業の分類と統計
2	工業の発達と経済
3	わが国の工業地域(1)
4	わが国の工業地域(2)
5	わが国の工業地域(3)
6	世界の工業地域(1)
7	世界の工業地域(2)
8	世界の工業地域(3)
9	世界の工業地域(4)
10	都市の概念
11	小売業の立地と中心地
12	中枢管理機能の立地と都市システム
13	最近の経済地理の動向(1)
14	最近の経済地理の動向(2)
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

追試・再試は原則としておこなわない。

【評価方法】

出席状況とレポートで総合的に判断する。

【テキスト】

帝国書院『新詳高等地図』1800円、帝国書院『新詳地理の研究』980円

【参考文献】

授業の中で適宜紹介する。

現代沖縄経済史

担当教員 一來間 泰男

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

沖縄の歴史を、経済に視点をあてながら、概説していく。沖縄の歴史は、日本史の知識では理解できるものではなく、かなりの独自性をもっている。そして、研究の水準も高くない。いろいろと議論すべきことが多い。それを、根拠資料を示しながら、講義者独自の体系にして講義したい。

1945年以後の歴史に焦点を当てる。

今年度から、学習内容をシンプルにして、質疑応答の時間を確保したい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	10月 4日 アメリカ軍キャンプ収容期
2	10月11日 「統制経済」とその破綻
3	10月18日 自由経済への移行と「基地経済」
4	10月25日 軍用地問題と「島ぐるみの闘争」
5	11月 1日 1950年代の経済
6	11月 8日 経済政策の転換
7	11月15日 さとうきびブームと糖業
8	11月22日 製造業の展開
9	11月29日 貿易・金融・商業等の展開
10	12月 6日 日本復帰運動と各種大衆運動
11	12月13日 1960年代の経済
12	12月20日 「一体化政策」と行財政
13	1月10日 日米協議の進展と日本復帰運動
14	1月17日 日本復帰後の経済
15	1月24日 期末テスト
16	

【履修上の注意事項】

- ①居眠りは許さない（少しはいい）。おしゃべりは許さない（絶対にだめ）。
- ②携帯電話の電源は切っておくこと。
- ③出席は毎回とる。

【評価方法】

出席状況と、3回実施する豆テスト（10点×3歩〜30点）、1回実施する本テスト（70点）の合計で判定する。

【テキスト】

テキストは指定せず、毎回プリントを配り、それにそって講義する。

【参考文献】

その都度、紹介する。

情報処理概論

担当教員 松崎 大介

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

本講義では、情報処理技術と計算機の基礎的な演算方法について講義し、これらの基礎を築くことを目的とする。具体的には、まず情報処理の概念と計算機の構造、およびその動作原理について学んでもらいたい。さらに、ファイルシステムおよびデータベースシステムの動作と、これらのシステムを運用する概念に関し理解を深めてもらいたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション（登録と講義計画）
2	情報の概念
3	情報処理と計算機
4	半導体と演算
5	計算機の原理
6	中央演算装置とメモリー
7	オペレーティングシステム
8	ファイルシステム
9	通信技術とネットワーク
10	データベース I
11	データベース II
12	情報化とシステム開発
13	システムの運用管理 I
14	システムの運用管理 II
15	テスト
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

主に期末試験に基づいて評価する。出席・レポートは補助的な評価対象とする。

【テキスト】

第一回目の講義で指示する。

【参考文献】

相田洋, 1995, 電子立国日本の自叙伝 (NHKライブラリー)
浅井宗海, 1999, 新コンピューター概論 (実教出版)

情報リテラシー演習

担当教員 根路銘 もえ子・東 るみ子

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

高度情報化社会の現在、情報機器を有用な道具として活用できる能力が求められており、大学においても情報リテラシーは必須となっている。本講義では、コンピュータの基本的な知識および情報リテラシーの習得を目的としている。具体的には、電子メールの使用方法、インターネットの活用、レポート・論文作成に必要なワープロソフトウェアの操作方法、および、データ分析に必要な表計算ソフトウェアの基本操作を主に学習する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス 注意事項・コンピュータの起動
2	グループウェアの使い方・日本語入力の練習
3	インターネットの活用・情報検索（1）
4	インターネットの活用・情報検索（2）
5	ワープロソフトウェアの基本操作方法（1）
6	ワープロソフトウェアの基本操作方法（2）
7	ワープロソフトウェアの基本操作方法（3）
8	ワープロソフトウェアの基本操作方法（4）
9	ワープロソフトウェアの基本操作方法（5）
10	ワープロソフトウェアの基本操作方法（6）
11	表計算ソフトウェアの基本操作方法（1）
12	表計算ソフトウェアの基本操作方法（2）
13	表計算ソフトウェアの基本操作方法（3）
14	表計算ソフトウェアの基本操作方法（4）
15	文書の統合
16	

【履修上の注意事項】

地域環境政策学科・1年次対象科目。講義は段階的に進めるため、講義内容を理解してもらうためにも出席を重視する。1年次の必修科目であるため1年次優先。空きがあれば、他年次の学生の登録も可能とする。

【評価方法】

出席状況、課題内容、試験により総合的に評価する。

【テキスト】

講義中にレジメを配布する。

【参考文献】

開講時に紹介する。

プレゼンテーション

担当教員 高崎 理子

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

近年、文章作成およびプレゼンテーション能力の重要性が高まっています。こうした能力を学生時代から磨いておけば、就職活動時だけでなく社会人になってからも、様々な場面で役に立つことでしょう。そこで、この授業では、最初のステップとして、皆さんが現在よりも気軽に文章を書き、楽しんでプレゼンテーションをするきっかけとなるよう、具体的な方法を中心に説明していきます。また、皆さんが実際に練習をする機会を、できるだけ多くつくりたいと考えています。

【授業の展開計画】

まず、前半（2～7回目）で基礎的なレポートを書く力を身につけます。そして、前半で習得した文章作成力をもとに、後半（9～14回目）の授業では、説得力のあるプレゼンテーションを行う方法を習得していきましょう。最終的には、自分の考えを的確にまとめ、他の人にわかりやすく伝えることのできるレベルをめざします。

1. ガイダンス：講義の概要・成績評価方法についての説明
2. 文章作成の基本：礼状・自己PR文の書き方
3. レポートの基本①：プランの立て方、レポートの構成
4. レポートの基本②：テーマの決定、文献探索
5. レポートの実践①：文献・情報カードの作成
6. レポートの実践②：文法・文章構造
7. レポートの実践③：引用、参考文献リスト、推敲
8. 中間テスト
9. プレゼンテーションの準備①：プランの立て方、スピーチ原稿の作成
10. プレゼンテーションの準備②：スピーチ原稿の修正
11. プレゼンテーションの準備③：レジュメの書き方
12. プレゼンテーションの実践①：リハーサル、早口言葉・アイコンタクトの練習
13. プレゼンテーションの実践②：グループ・プレゼン大会
14. プレゼンテーションの実践③：期末テストの準備
15. 期末テスト

【履修上の注意事項】

・抽選となった場合は、学科、学年を問わず、抽選する予定です。

【評価方法】

・中間テストと期末テストの結果（50%）、授業への参加姿勢（50%）等から総合的に判断します。出席状況や講義での積極的な取り組みは、授業への参加姿勢の中で評価します。

【テキスト】

特に指定はありません。適宜、資料プリントを配布する予定です。

【参考文献】

- ・菊田千春、北林利治『大学生のための論理的に書き、プレゼンする技術』（東洋経済新報社、2006年）
- ・小笠原喜康『大学生のためのレポート・論文術』（講談社、2002年）

プログラミング演習

担当教員 根路銘 もえ子・東 るみ子

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

情報が氾濫する現在において、膨大な情報資源の中から必要な情報を的確に収集し、それを活用する能力が求められている。本講義では、情報リテラシー演習で学んだ基礎知識に続き、データ分析に必要な表計算ソフトウェアの応用操作について学習するとともに、収集したデータの見せ方、画像処理の方法、さらに、情報提供の場としてのWebページ制作およびJavaScriptに関して主に学習する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス・コンピュータ情報リテラシーの基本
2	表計算ソフトウェアの復習
3	表計算ソフトウェアの応用操作方法（1）
4	表計算ソフトウェアの応用操作方法（2）
5	表計算ソフトウェアの応用操作方法（3）
6	インターネットによる情報検索・画像データ処理（1）
7	インターネットによる情報検索・画像データ処理（2）
8	発表資料作成ソフトウェアの操作方法（1）
9	発表資料作成ソフトウェアの操作方法（2）
10	発表資料作成ソフトウェアの操作方法（3）
11	文書の統合
12	Webページ制作（1）
13	Webページ制作（2）
14	JavaScriptの基本（1）
15	JavaScriptの基本（2）
16	

【履修上の注意事項】

地域環境政策学科・1年次対象科目。講義は段階的に進めるので、講義内容を理解してもらうためにも出席を重視する。1年次の必修科目であるため1年次優先。空きがあれば、他年次の学生の登録も可能とする。

【評価方法】

出席状況、課題内容、試験により総合的に評価する。

【テキスト】

講義中にレジメを配布する。

【参考文献】

開講時に紹介する。

簿記原理 I

担当教員 井口 千秋

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

簿記は経済社会において有用な道具として広く利用されています。例えば、大企業では、一日に何億もの資金を動かしています。この膨大な取引を整理しているのが簿記であります。また、一方では、小さな商店や個人事業であっても簿記を利用して取引を整理しています。簿記はこのような企業の取引を記録し、「財務諸表」という報告書にまとめる技術です。このように現在社会において欠かせない簿記について本講義では基礎的な技法の習得とともに、特徴の理解を深めていただきます。

【授業の展開計画】

第1章 簿記の基礎	第1節 簿記の基本原則	第2節 簿記一巡
第2章 現金及び小口現金	第1節 現金勘定(資産)	第2節 小口現金勘定(資産)
	第3節 現金過不足勘定	
第3章 当座預金勘定	第1節 当座預金(資産)	第2節 当座借越(負債)
第4章 商品売買取引	第1節 3分割法	第2節 掛取引(信用取引)
	第3節 値引と返品取扱	第4節 商品売買取引に関する付随費用の処理
	第5節 発送費用の処理	第6節 仕入帳と売上帳
	第7節 商品有高帳	第8節 決算整理仕訳(売上原価の算定)
第5章 手形	第1節 約束手形	第2節 手形の裏書譲渡
	第3節 手形の割引	第4節 為替手形
	第5節 金融手形(融通手形)	第6節 受取手形記入帳・支払手形記入帳
第6章 その他の債権債務	第1節 貸付金勘定と借入金勘定	第2節 未収金勘定と未払金勘定
	第3節 前払金勘定と前受金勘定	第4節 仮払金勘定と仮受金勘定
	第5節 商品券勘定と他店商品券勘定	第6節 立替金勘定と預り金勘定
第7章 貸倒引当金	第1節 貸倒れ	第2節 決算整理事項
第8章 有価証券	第1節 有価証券の種類	第2節 有価証券の購入
第9章 固定資産	第1節 固定資産とは	第2節 固定資産の取得原価
	第3節 固定資産の取得時の処理	

【履修上の注意事項】

(ア)電卓、赤ペン、定規持参。(イ)各回の授業は相互に関連して一体となっています。欠席すると全体像がつかめなくなりますので、万一欠席した場合は、必ずその部分を自分自身で補う必要があります。

(ウ)大学で初めて簿記を学ぶ者を中心とし、簿記の基本について講義します。

(エ)簿記検定試験の受験などで成果の確認を行うことをお勧めします。

(オ)後期の「簿記原理Ⅱ」、「環境会計」の礎とします。

【評価方法】

小テストおよび定期試験結果により評価する定期試験結果

【テキスト】

(ア)日商3級 合格テキスト

(イ)日商3級 合格トレーニング

【参考文献】

簿記原理Ⅱ

担当教員 井口 千秋

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

簿記は経済社会において有用な道具として広く利用されています。例えば、大企業では、一日に何億もの資金を動かしています。この膨大な取引を整理しているのが簿記であります。また、一方では、小さな商店や個人事業であっても簿記を利用して取引を整理しています。簿記はこのような企業の取引を記録し、「財務諸表」という報告書にまとめる技術です。このように現在社会において欠かせない簿記について本講義では、簿記原理Ⅰで学習したことを踏まえながら、技術の習得とともに、特徴の理解を深めていただきます。

【授業の展開計画】

第10章	費用・収益の見越・繰延	第1節	費用又は収益の繰延	
		第2節	費用又は収益の見越計上	
第11章	消耗品（消耗品費）の処理	第1節	購入時に消耗品費勘定で処理する方法（費用法）	
		第2節	購入時に消耗品勘定で処理する方法（資産法）	
第12章	資本金と引出金	第1節	資本金勘定と引出金勘定	
		第2節	資本金勘定と引出金勘定の相殺	
第13章	伝票会計	第1節	伝票	第2節 3伝票制
		第3節	5伝票制	
第14章	試算表	第1節	試算表の作成	第2節 試算表の作成問題
第15章	精算表	第1節	精算表の作成	第2節 精算表の作成問題
第16章	帳簿の締切り及び振替	第1節	帳簿の締切り	第2節 締切りの順序
		第3節	損益勘定の設定と費用及び収益の各勘定の締切り	
		第4節	損益勘定の締切り	
		第5節	資産・負債・資本の各勘定の締切り手順	
		第6節	財務諸表の作成	

【履修上の注意事項】

(ア) 電卓、赤ペン、定規持参。(イ) 各回の授業は相互に関連して一体となっています。欠席すると全体像がつかめなくなりますので、万一欠席した場合は、必ずその部分を自分自身で補う必要があります。

(ウ) 「簿記原理Ⅰ」を学習したものの者を中心とし、簿記の基本について講義します。

(エ) 簿記検定試験の受験などで成果の確認を行うことをお勧めします。

(オ) 「環境会計」の礎とします。

【評価方法】

小テストおよび定期試験結果により評価する定期試験結果

【テキスト】

(ア) 日商3級 合格テキスト

(イ) 日商3級 合格トレーニング

【参考文献】

アジア経済と環境

担当教員 呉 錫畢

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

急速なアジアの経済成長は、同時に環境問題も急速に現れている。しかし、環境問題は一国だけの問題で留まることではない。この講義では、経済が急成長している東アジア、特に日本、韓国、中国、インド等を中心に、経済成長の背景を見た上で、どのような環境問題に直面しているのか。アジアの環境問題を、特に経済成長や産業構造の観点で、じっくり、考えながら、教科書のみならず、ビデオや写真を通して、経済と環境問題の相互関係を分かりやすく、解説する。しかし、一方的な講義形式ではなく、互いに論じ合う講義になる。

【授業の展開計画】

- 1週目：アジア的経済成長
- 2週目：アジア的環境問題
- 3週目：中国の社会変化と経済
- 4週目：中国のエネルギー状況
- 5週目：中国の経済成長と環境問題
- 6週目：日本の経済成長と産業公害
- 7週目：日本のエネルギーと経済
- 8週目：台湾の経済成長と環境問題
- 9週目：韓国の経済成長と環境問題
- 10週目：インドの経済と社会変化
- 11週目：インドのエネルギーと環境問題
- 12週目：国際エネルギー情勢の現状1
- 13週目：国際エネルギー情勢の現状2
- 14週目：持続的発展に関する世界サミット概観
- 15週目：地球温暖化とCOP3・COP15におけるアジア経済の観点
- 16週目：期末試験

【履修上の注意事項】

講義を聴いている人に迷惑をかけること。アジア的考えを少し持って欲しい。アジア的考えて何？。自ら考えてもらいたい。

【評価方法】

期末試験、レポート、特に出欠を大事にする。

【テキスト】

- ①井出亜夫編（2004）、アジアのエネルギー・環境と経済発展、慶応義塾大学出版社。

【参考文献】

- ①呉錫畢（1999）、環境政策の経済分析、日本経済評論社。
- ②アジア環境白書〈2003/04〉、井上 真（編集）、その他、東洋経済新報社。

エコフィロソフィ論

担当教員 武田 一博

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

本講義では、エコロジーを取り巻く諸問題を哲学のサイドから考えることを目的とする。それは具体的には、農業にせよ工業生産にせよ、人類は自然を開拓・改変・利用することによって文明を進歩・発展させてきたという歴史をもつ中で、はたして人類は自然と共生・和解することができるのか、を考えることである。そして、そのことは、人間と自然の関係を問い直すことでもある。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講師自己紹介、エコロジーを哲学するとは
2	成績評価について、哲学することについて
3	エコロジーとは何か、何が問題か
4	人間の文明とは何かー開発・進歩
5	農林業とエコロジー
6	工業とエコロジー
7	環境とは何かー自然、生命、身体
8	産業文明と外部不経済
9	「環境に優しいクルマ」は存在するか
10	環境問題は技術によって解決可能か
11	市場社会の問題
12	産業労働の問題
13	ライフスタイルの問題
14	エコロジー的な生き方とは
15	受講生の感想・評価、レポート提出
16	

【履修上の注意事項】

私語と居眠りは教室の外で行なってもらいます。

【評価方法】

基本的にはレポートによって成績を評価する。途中で課題をだすこともある。課題は、内容によって、評価に上乘せする。出席点は、成績に考慮しない。

【テキスト】

武田一博『市場社会から共生社会へ』青木書店1998年
尾関・亀山・武田編『環境思想キーワード』青木書店2005年

【参考文献】

環境教育論

担当教員 砂川 かおり

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

従来型の『銀行型教育』ではなく、パウロ・フレイレが提起した「問題提起教育」をファシリテートできるの力を育てる。テキストで環境教育の歴史や内容、実践論などについて学びながら、環境教育の授業を計画し、実践してみる。ファシリテーター講座も体験する。

【授業の展開計画】

- 第1週 パウロ・フレイレが提起した「問題提起教育」について・ファシリテーター講座（講義）
- 第2週 アサザプロジェクトと100年後の夢（講義）
- 第3週 沖縄の昔・現在・未来（講義）
- 第4週 100年後の夢づくりのための調べ学習（演習）
- 第5週 100年後の夢と環境教育（演習）
- 第6週 環境教育の基礎理論（講義）
- 第7週 環境教育の内容・方法（1）自然科学の視点から をまとめる（演習）
- 第8週 環境教育の内容・方法（2）社会科学的・人文科学的視点から をまとめる（演習）
- 第9週 環境教育のプログラムと方法・環境教育の接近分野（講義）
- 第10週 環境教育体験（野外活動）
- 第11～12週 グループによる社会に必要とされる環境教育のプログラム（実践編）作成・準備（演習）
- 第13～15週 グループによる環境教育模擬授業の実施、
環境教育プログラムを活用して欲しい個人や団体から評価を得る（評価対象）

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席状況と課題の内容で評価します。

【テキスト】

川嶋宗継・市川智史・今村光章 編著『環境教育への招待』（ミネルヴァ書房、2002年）

【参考文献】

多田実『魔法じゃない アサザだよ』（合同出版）、パウロ フレイレ『希望の教育学』（太郎次郎社）、その他
適宜必要に応じて案内する。

環境資源論

担当教員 山川（矢敷） 彩子

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

本講義では、受講者が琉球列島における自然的環境資源について理解を深めることを目的として、サンゴ礁、海草藻場、干潟、砂浜などにおける環境資源について学ぶ。最終的には、環境資源の有効利用の仕方および環境保全について考える。

【授業の展開計画】

講義では基本的に以下の内容を実施するが、講義の順番や内容は変更することがある。

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	環境資源とは
3	日本および琉球列島の成り立ち
4	琉球列島の陸上生物
5	海の危険生物
6	砂浜環境と資源
7	干潟環境と資源
8	サンゴ礁の資源・磯の恵み
9	藻場環境と資源
10	サンゴ礁とは
11	サンゴ礁をめぐる問題①（オニヒトデの大量発生）
12	サンゴ礁をめぐる問題②（サンゴの白化）
13	サンゴ礁をめぐる問題③（ダイナマイト漁）
14	環境資源の有効利用（エコツーリズム）
15	総括、16回目に期末試験
16	

【履修上の注意事項】

登録調整期間の出席状況も評価に反映する。
 欠席理由に関わらず、3分の1以上の欠席は不可となる。
 出席で代筆が明らかとなった場合は不可となる。
 最終年次においても追試は実施しないので気をつけること。

【評価方法】

講義の際に毎回記入するフィードバックシート（意見、感想、質問）の内容、試験およびレポートの内容により総合的に評価する。3分の1以上の欠席、課題の未提出、試験を欠席した学生には単位を与えない。

【テキスト】

テキストは指定しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

環境政策書講読 I

担当教員 砂川 かおり

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

本講義は、環境に関する本を読むことを通じて環境についての基礎知識を習得することともに、批判的・理論的に読む力をつけることを目的にしている。具体的には、「生物多様性」について学習していく。

【授業の展開計画】

2010年は「国連国際生物多様性年」という機会を利用して、生物多様性に関する様々な文献を講読していく。具体的には、①受講生が担当する部分(5～10ページ程度)をまとめ、環境関連の用語も説明していく。②教員が必要な箇所については、詳しく説明する。③可能な限り購読した部分に関連しての討論も行う。教員による説明では可能な限り、映像資料も使用する予定である。

第1週 講義概要説明・発表担当割り振り

第2～4週 『世界に乗り遅れないための 生物多様性読本』

第5～12週 『国連ミレニアム エコシステム評価 生態系サービスと人類の将来』

第13～15週 『企業のためのやさしくわかる「生物多様性」』

授業の最後にリアクションペーパーを記述・提出する。

リアクションペーパーは、授業で学んだこと、感想及び質問を記述して提出する。

【履修上の注意事項】

初回のガイダンスには必ず出席して下さい。授業の内容を説明し、発表担当割り振りを行います。

【評価方法】

成績評価は発表、リアクションペーパー、出席および講義への参加姿勢を総合的に評価する。リアクションペーパーは、授業で学んだこと、感想及び質問等を記述して提出する。

【テキスト】

『世界に乗り遅れないための 生物多様性読本』（日経BP社）、国連ミレニアム エコシステム評価 生態系サービスと人類の将来』（オーム社）、『企業のためのやさしくわかる「生物多様性」』（技術評論社）

【参考文献】

必要に応じて案内する。

環境政策書講読Ⅱ

担当教員 砂川 かおり

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

本講義は、環境に関する本を読むことを通じて環境についての基礎知識を習得することともに、批判的・理論的に読む力をつけることを目的にしている。具体的には、「沖縄の環境問題」など受講生の関心のあるテーマについて学習していく。

【授業の展開計画】

受講生が1～2人で、沖縄県における環境問題や関心のあるテーマについて文献を講読し、①問題と②対策についてまとめて、発表する。

具体的には、①受講生が担当する部分(5～10ページ)をまとめ、環境関連の用語も説明していく。

②教員が必要な箇所については、詳しく説明する。③可能な限り購読した部分に関連しての討論も行う。

教員による説明では可能な限り、映像資料も使用する予定である。

そして、授業の最後にリアクションペーパーを記述・提出する。

リアクションペーパーは、授業で学んだこと、感想及び質問を記述して提出する。

【履修上の注意事項】

初回のガイダンスには必ず出席して下さい。授業の内容を説明し、発表担当割り振りを行います。

【評価方法】

成績評価は発表、リアクションペーパー、出席および講義への参加姿勢を総合的に評価する。

リアクションペーパーは、授業で学んだこと、感想及び質問等を記述して提出する。

【テキスト】

配布資料を使用（各自ファイルを用意すること）。

【参考文献】

必要に応じて案内する。

環境政策論

担当教員 呉 錫畢

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

地球温暖化の問題が叫ばれているが、それは経済成長に起因している。経済規模が益々巨大化される今日、循環型の経済を維持するための環境政策は可能なのか。経済発展を維持しつつ、環境政策の手法にはどのようなものがあるのか、経済学の観点から環境政策を解説する。市場に環境政策を取り組むデポジット制度、排出権取引、中古車が多い沖縄での廃車や廃タイヤ問題や赤土流出対策など、生活に密接関係がある基礎的な政策も含めて、分かる安く解説する。しかし、一方的な講義より、互いにディスカッションする場を設けたい。

【授業の展開計画】

1. 経済と環境への入門
2. 何が公害の原点の水俣病をもたらしたか
3. なぜ環境を学ぶのか
4. 持続可能な発展とは
5. 環境政策と政府の役割
6. 第二次世界大戦後の環境問題の変遷
7. 環境問題の国際化と環境政策の新たな展開
8. 経済政策からみる環境政策の手段
9. 環境政策の原則と指針
10. 環境政策の手法 (1) (総合的手法)
11. 環境政策の手法 (2) (規制的手法・経済的手法)
12. 地球温暖化問題と低炭素化社会を考える
13. 地球温暖化からみるCOP3とCOP15の意義
14. 人間と地球環境の安全保障
15. 地球温暖化の長期的な目標と低炭素社会
16. 沖縄経済と環境政策を論じる

【履修上の注意事項】

環境と経済、また地球環境問題に関心を持つことが望ましい

【評価方法】

期末試験、レポート、特に出欠を大事にする。

【テキスト】

松下和夫 (2007) 『環境政策のすすめ』 (京大人気講義シリーズ)、丸善株式会社。

【参考文献】

- ① 呉錫畢 (1999) 『環境政策の経済分析』、日本経済評論社。
- ② 石坂匡身 (2000) 『環境政策学—環境問題と政策体系』、中央法規出版。その他、テーマに添って随時紹介

環境文化論

担当教員 砂川 かおり

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

環境と調和した暮らしを守ったり、環境保全活動の第一線で活躍する様々な専門家に関するエッセイの「読解」を通して、自然環境と私たちの暮らし（日常生活）や、文化との繋がりを考える。

【授業の展開計画】

第1週 講義概要説明

第2週～第14週 「つながるいのち」の読解＋ワークシート

第15週 まとめ

【履修上の注意事項】

ほぼ毎回、講義内容に関するワークシートを課します。

【評価方法】

出席状況と提出物の内容を合わせて評価する。

【テキスト】

テキスト：日本環境ジャーナリストの会『つながるいのち 生物多様性からのメッセージ』（山と溪谷社、2005年）

【参考文献】

随時案内します。

環境法

担当教員 砂川 かおり

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

環境問題は公害から生活環境問題、さらに将来世代の持続可能な発展を求める地球規模の問題へ拡大しています。環境法とは、環境の質を社会的に望ましい状態にするための法システムの総称です。つまり、現在および将来の環境の質の状態に影響を与える関係主体の意思決定を社会的望ましい状態の実現に向けるためのアプローチに関する法、および、環境に関する紛争処理に関する法律です。

【授業の展開計画】

本講義では、環境法に係るこれまでの理論的蓄積やアプローチ、判例等を学びながら、環境法に関する諸課題について理解を深め、問題点の抽出、解決方法等について考え、分析できる能力を身に付けることを目的としています。

1. 日本の公害・環境法の歴史
2. 環境問題と環境法の特色・体系
3. 環境法の基本理念・原則、各主体の役割
4. 環境政策の手法（経済的手法、自主的取組と情報的手法）
5. 環境基本法と環境基本計画
6. 環境規制と法
7. 環境影響評価に関する法
8. 有害化学物質管理法
9. 汚染排出の防止・削減に関する法
10. 循環管理法
11. 自然・文化環境保全法
12. 環境保護の費用負担
13. 公害・環境事件の司法・行政的解決
14. 地球環境問題に関する条約と国内的対応
15. まとめ
16. 試験

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席・レポート・期末試験により評価します。
評価配分：出席点30%、レポート20%、期末試験50%

【テキスト】

畠山武道・大塚 直・北村喜宣「環境法入門」（日本経済新聞出版社）

【参考文献】

大塚直「環境法」（有斐閣）、大塚直・北村喜宣「環境法ケースブック」（有斐閣）、「ジュリスト別冊、公害環境判例百選」（有斐閣）、その他 適宜プリント等配布。

外書講読 I

担当教員 砂川 かおり

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

環境問題に関する英文の読解を通して、環境政策に関する基本的な用語の理解を深める。外書講読 I では、毎回受講生全員がテキストを音読し、和訳していきます。

【授業の展開計画】

Week 1 講義内容の説明及び確認テスト
Week 2 ～ 7 Topics for Global Citizenship
Week 8 中間試験
Week 9 ～ 15 Topics for Global Citizenship
Week 16 期末試験

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席状況と試験の結果をあわせて評価します。

【テキスト】

David Peaty. Topics for Global Citizenship (金星堂 2005)

【参考文献】

英和辞典

外書講読 I

担当教員 島袋 栄一

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

環境問題に関する英文の読解を通して、環境政策に関する基本的な用語の理解を深める。外書講読 I では、毎回受講生全員がテキストを音読し、和訳していきます。

【授業の展開計画】

Week 1 講義内容の説明及び確認テスト
Week 2 ~ 7 Topics for Global Citizenship
Week 8 中間試験
Week 9 ~ 14 Topics for Global Citizenship
Week 15 期末試験

【履修上の注意事項】

最初の週にテストを行うので、英和辞典を持参すること。

【評価方法】

出席状況と試験の結果をあわせて評価します。

【テキスト】

David Peaty. Topics for Global Citizenship (金星堂 2005)

【参考文献】

英和辞典

外書講読Ⅱ

担当教員 砂川 かおり

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

環境問題に関する英文の読解を通して、環境政策に関する基本的な用語の理解を深める。
レイチェル・カーソンが『沈黙の春』を書き上げるまでの経緯について書かれたテキストなどを読解しその内容について各自が訳出していく。

【授業の展開計画】

Week 1 講義内容の説明
Week 2～9 Beyond "Silent Spring"
Week 10 中間試験
Week 11～15 環境問題等に関する英文
Week 16 期末試験

【履修上の注意事項】

英和辞典必携

【評価方法】

出席状況と試験の結果をあわせて評価します。

【テキスト】

- ①安藤富雄、Michelle Potter. Beyond "Silent Spring" (三友社出版 1997)
- ②その他 (講義中に案内します)

【参考文献】

随時案内します。

外書講読Ⅱ

担当教員 島袋 栄一

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

環境問題に関する英文の読解を通して、環境政策に関する基本的な用語の理解を深める。
レイチェル・カーソンが『沈黙の春』を書き上げるまでの経緯について書かれたテキストなどを読解しその内容について各自が訳出していく。

【授業の展開計画】

Week 1 講義内容の説明
Week 2～9 Beyond "Silent Spring"
Week 10 中間試験
Week 11～14 環境問題等に関する英文
Week 15 期末試験

【履修上の注意事項】

英和辞典必携

【評価方法】

出席状況と試験の結果をあわせて評価します。

【テキスト】

- ①安藤富雄、Michelle Potter. Beyond "Silent Spring" (三友社出版 1997)
- ②その他 (講義中に案内します)

【参考文献】

随時案内します。

経済原論 I

担当教員 梅井 道生

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

経済学科のマルクス経済学 I を参照すること。

【授業の展開計画】

経済学科マルクス経済学 I のシラバスを参照すること。

【履修上の注意事項】

経済学科のマルクス経済学 I の注意事項を参照のこと。

【評価方法】

経済学科マルクス経済学 I の評価方法を参照のこと。

【テキスト】

開講時に指示する。

【参考文献】

講義の時、必要に応じて指示する。

経済原論Ⅱ

担当教員 梅井 道生

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

経済学科の、マルクス経済学Ⅱを参照のこと。

【授業の展開計画】

経済学科の、マルクス経済学Ⅱを参照のこと。

【履修上の注意事項】

経済学科の、マルクス経済学Ⅱを参照のこと。

【評価方法】

経済学科の、マルクス経済学Ⅱを参照のこと。

【テキスト】

開講時に指示したテキストを使用する。

【参考文献】

講義時に指示する。

交通と環境

担当教員 藤原 邦夫

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

本講義では、交通が関係する環境問題について論じる。はじめに、交通公害を取り上げる。ここでは、交通公害のなかで自動車交通によって生ずる大気汚染と騒音の問題に焦点を絞り、その実態を示し、解決の方向を探る。つぎに、地球環境問題を取り上げる。ここでは、この問題のなかで地球温暖化問題に絞る。そして、地球温暖化に関係があるとみなされている温室効果ガス、とくに二酸化炭素を取り上げ、交通と二酸化炭素排出量増加との関係を示し、その背景そして二酸化炭素排出量抑制の方向について考える。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	自動車交通が関係する環境問題
3	大気汚染の現状（全国と沖縄）
4	道路交通騒音の現状（全国と沖縄）
5	環境研究における経済学の役割
6	自動車交通の社会的費用
7	経済学の立場からの交通公害の解決策
8	同上
9	経済学以外の立場からの交通公害の解決策
10	地球温暖化とは何か
11	地球温暖化と交通の関係
12	交通部門の二酸化炭素排出量の増加の背景
13	交通部門の二酸化炭素排出量の抑制策
14	交通部門の二酸化炭素排出量の抑制策
15	テスト
16	

【履修上の注意事項】

毎回出席をとる。欠席を最小限にすること。授業中の私語を慎むこと。

【評価方法】

テストにもとづいておこなう。

【テキスト】

使用しない。毎回詳しいレジュメを配布する。

【参考文献】

Button, K., Transport, the Environment and Economic Policy, Edward Elgar

コンピュータ概論

担当教員 根路銘 もえ子

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考 資格科目（経済学部対象）

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

コンピュータ科学の基礎、コンピュータ内部のデータ表現、コンピュータシステム・ハードウェア、コンピュータシステム・ソフトウェア、データ構造とアルゴリズム、システム開発と運用、ネットワーク技術、LANとインターネット、情報化と経営等を体系的に学ぶ。具体的な内容は、通信速度とトラフィック、コンピュータアーキテクチャ、インターネット関連技術、サーバ・クライアントネットワークシステムの概要、スプレッドシートの概要、データベースの概要、プログラミングの基礎等を取り上げる。

【授業の展開計画】

- 1 講義ガイダンス
- 2 コンピュータ科学の基礎
- 3 コンピュータ内部のデータ表現
- 4 コンピュータシステム・ハードウェア
- 5 コンピュータシステム・ソフトウェア
- 6 システムの開発と運用
- 7 データ構造とアルゴリズム
- 8 コンピュータネットワークの基礎
- 9 インターネット1
- 10 インターネット2
- 11 通信速度とトラフィック
- 12 サーバ・クライアントネットワークシステム1
- 13 サーバ・クライアントネットワークシステム2
- 14 社会構造の変化と情報化
- 15 最終試験
- 16 試験解答

【履修上の注意事項】

本科目は、上級情報処理士課程科目であるため、卒業単位には含まれない。

【評価方法】

講義の評価は、出席状況と試験の結果より総合的に判断する。

【テキスト】

テキストは講義時に指定する。

【参考文献】

参考文献は講義時に指定する。

社会調査論 I

担当教員 上江洲 薫

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

社会事象の解明に用いられる調査方法の理論の基本的な内容を講義する。この方法を用いる調査を社会調査と呼び、社会調査を適用して実証分析をおこなう学問分野は広範囲にわたる。社会調査は実証分析のための重要な方法である。ここで学ぶ調査方法論の内容は、大別すれば次の3つになる。①どんなデータをとるか、②データをどのようにしてとるか、③集めたデータからどのようにして情報を引き出すか。社会調査論 I ではそれら3つについて解説する。必要に応じて、関連資料などの配布や学生による作業も行う。

【授業の展開計画】

1. 講義説明
2. 社会調査とは（社会調査の意味、意義、目的）
3. 社会調査の歴史
4. 社会調査の種類と用途
5. 社会調査の実例を検証（学術調査、世論調査、マーケティング・リサーチなど）
6. 社会調査の基本的ルール（調査上の倫理と注意事項）
7. テーマ設定と情報収集①（参考図書、新聞記事、インターネットなど）
8. テーマ設定と情報収集②（既存論文の収集）
9. テーマ設定と情報収集③（既存文献の分析とテーマ設定）
10. 既存の統計データの収集・分析①（官公統計の種類と特徴）
11. 既存の統計データの収集・分析②（データ収集と加工）
12. 量的調査（量的調査法の特性と種類）
13. 質的調査①（質的調査の特性と種類）
14. 質的調査②（聞き取り調査）
15. 質的調査③（参与観察法、ドキュメント分析）・まとめ
16. 試験

【履修上の注意事項】

途中退席や私語を繰り返す受講生は大きな減点とする。初回の講義から出席を取る。社会調査士の資格取得希望者は、出来るだけ2年次で単位を取得して欲しい。

【評価方法】

成績評価は出席・講義への参加姿勢（20点）や試験（40点）、作業物の提出（40点）で判断する。

【テキスト】

大谷信介他編著『社会調査へのアプローチ—論理と方法—』（第2版）ミネルヴァ書房。また、参考配布資料も行う（ファイルに綴じ、毎回持参する）。

【参考文献】

原 純輔・浅川達人（2005）『社会調査』放送大学教育振興会。盛山和夫（2004）『社会調査法入門』有斐閣。島崎哲彦編（2000）『社会調査の実際—統計調査の方法とデータの分析』学文社

社会調査論Ⅱ

担当教員 上江洲 薫

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

社会調査Ⅰにおいて、基本的事項を踏まえたうえで、社会調査（主に量的調査）によって収集した資料やデータを整理し、分析するための具体的な方法を解説する。そして、受講生が具体的に調査企画・設計、サンプリング、調査の実施、データの整理・集計・分析等の作業を通じて社会調査を学びます。実際に、グループ毎にテーマを設定し、調査票を作成後、調査を実施し、調査結果を発表してもらいます。なお、グループの人数は5名ですが、受講者人数によって変動することもあります。

【授業の展開計画】

1. 講義説明
2. 調査の企画・設計①（調査テーマの設定、仮説構成、概念の操作的定義）
3. 調査の企画・設計②（グループ学習—調査企画書を作成）
4. 調査票作成の実際①（調査票調査のプロセス、質問文の種類、ワーディングなど）
5. 調査票作成の実際②（選択肢作成と注意事項、調査票の構成要素）
6. サンプリングの論理と種類（乱数の発生と単純無作為抽出法、系統抽出法と層化抽出法）
7. 調査票を作成（グループごとに作成）
8. 調査の実施方法（調査票の配布・回収法、面接調査の仕方、依頼状の作成など）
9. 調査票調査の実施①（10グループによる配布・回収）
10. 調査票調査の実施②（10グループによる配布・回収）
11. 調査データの整理（エディティング、コーディング、データインプット、データクリーニング）
12. 集計：単純集計とクロス表の作成（グループ学習、簡単なデータの集計）
13. グループによるアンケート調査の成果報告①
14. グループによるアンケート調査の成果報告②
15. グループによるアンケート調査の成果報告③
16. まとめ（レポート提出）

【履修上の注意事項】

途中退席や私語を繰り返す受講生は大きな減点とする。初回の講義から出席を取る。社会調査士の資格取得希望者は、出来るだけ2年次で単位を取得して欲しい。

【評価方法】

成績評価は出席・講義への参加姿勢（30点）、グループ発表の内容（30点）、レポート（40点）で判断する。レポートはグループ毎の調査結果をもとに作成する。

【テキスト】

大谷信介他編著『社会調査へのアプローチ—論理と方法—第2版』（ミネルヴァ書房）。また、参考配布資料も行う（ファイルに綴じ、毎回持参する）。

【参考文献】

原 純輔・浅川達人（2005）『社会調査』放送大学教育振興会。盛山和夫（2004）『社会調査法入門』有斐閣。島崎哲彦編（2000）『社会調査の実際—統計調査の方法とデータの分析』学文社

集落地理論 I

担当教員 濱里 正史

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

20世紀は都市化の世紀と言われるほど都市化が進行しており21世紀もこの傾向は続くと予測されている。したがって、都市について学ぶことは現代および未来の社会を学ぶことに通ずる。特に最近では環境問題が人類の現在と未来における最重要課題として浮上するなか、これに対処する実践の場としての集落・都市の在り方が問われている。本講義では、集落地理論のみならず人文・社会科学全般において重要な研究対象の1つである都市について地理学的視点を重視しながら特に「沖縄の都市と集落」及び「環境と都市」について学ぶことを目的とする

【授業の展開計画】

講義のテーマは大きく2つに分かれる。1つは「沖縄の都市と集落」である。具体的には、「沖縄コナベーション」、「沖縄における基地と都市形成」、「沖縄の都市開発と環境問題」などについて学んでいく。もう1つのテーマは「環境と都市」である。具体的には、「エネルギーと都市」、「自動車と都市」についてヨーロッパの事例を参考にしながら講義した後、環境先進国ドイツの「環境都市フライブルク」を事例に、環境対策の実践の場としての都市とそのまちづくりがどのようなものであるかを学んでいく。

回 内容

- 1 イン트로ダクション
- 2 沖縄コナベーション 1
- 3 沖縄コナベーション 2
- 4 沖縄における基地と都市形成 1
- 5 沖縄における基地と都市形成 2
- 6 沖縄における基地と都市形成 3
- 7 沖縄の都市開発と環境問題 1
- 8 沖縄の都市開発と環境問題 2
- 9 エネルギーと都市 1
- 10 エネルギーと都市 2
- 11 自動車と都市 1
- 12 自動車と都市 2
- 13 環境都市フライブルク 1
- 14 環境都市フライブルク 2
- 15 期末試験

【履修上の注意事項】

出席は取らないが、講義に出席しない限り試験は書けないことに注意すること

【評価方法】

試験およびレポートを総合的に評価する。

【テキスト】

授業は毎回配る配付資料を基に行う。

【参考文献】

テキストは特にないが参考文献については随時指示する。

集落地理論Ⅱ

担当教員 崎浜 靖

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

集落地理論Ⅱでは、集落の中でも「村落」の歴史地理に関する講義を行う予定である。とくに村落景観に関する講義内容については、絵図資料や地図資料の読解、GIS（地理情報システム）を用いた分析方法、さらにはフィールドワークの方法に重点をおく。村落の社会経済的構造に関する講義については、これまでの沖縄研究の事例を映像資料を用いて紹介し、地域史・民俗学の研究成果を盛り込んで講義を進める予定である。

【授業の展開計画】

- 1 村落地理学の研究史
- 2 村落と地図①－地形図－
- 3 村落と地図②－国土基本図と地籍図－
- 4 村落と地図③－古地図と絵図資料－
- 5 村落と地図④－空中写真の判読とその利用方法－
- 6 村落と地図⑤－地理情報システムの利用方法－
- 7 村落の景観①－地理学の景観概念－
- 8 村落の景観②－景観研究の方法－
- 9 村落の景観③－景観研究の事例－
- 10 村落の景観④－景観調査の方法と実践－
- 11 村落の社会構造①－形態から生態へのアプローチ－
- 12 村落の社会構造②－沖縄村落の歴史地理－
- 13 村落の社会構造③－村落社会調査の方法と実践－
- 14 野外学習－本部町の村落空間－
- 15 期末試験

【履修上の注意事項】

地図帳を持参して講義に参加すること。課題提出と出席点、野外学習の参加を重視するので注意すること。

【評価方法】

期末試験と課題点、出席点により総合的に判断する。

【テキスト】

毎回、プリントを配布する。

【参考文献】

仲松弥秀著『神と村』 梟社
田里友哲著『論集 沖縄の集落研究』 離宇宙社

人口食糧論

担当教員 小川 護

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

世界の諸地域をみると、人口の急激に増加しているアジアやアフリカ、ラテンアメリカなどの発展途上国の地域、逆に人口増加の停滞あるいは現象がみられるわが国をはじめアングロアメリカ、ヨーロッパなどの地域があげられる。同時に発展途上国では食糧問題が発生し、先進国では少子高齢化の問題などを抱えている。この授業では、これらの諸問題について考えていきたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	この授業の開始にあたって(オリエンテーション)
2	人の分布と変化を考える
3	人口の動体と構成
4	人口の構成
5	発展途上国の人口問題
6	先進地域の人口問題
7	日本の人口増加
8	食糧問題と農産物貿易問題
9	土地制度と農地改革
10	世界の主要農産物-1-
11	世界の主要農産物-2-
12	日本の農業
13	世界の民族問題-1-
14	世界の民族問題-2-
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

出席を重視するので休すまないこと。当授業の内容は中学社会・高校地歴科・公民科の内容との関連で掘り下げた中身となっているので、とくに教員志望の受講者を希望する。

【評価方法】

出席状況とレポートで総合的に判断する。

【テキスト】

帝国書院『新詳高等地図』1800円。『新詳資料地理の研究』980円
毎回プリントを配布する。

【参考文献】

授業の中で適宜紹介する

生態学概論

担当教員 仲田 栄二

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

生態学は、現象をばらばらにほぐして、その一つ一つについて研究するというのではなく、あくまでも現象と現象とのあいだの関係をとらえようとする学問である。

本講義では、5から15までのテーマについては、主体－環境系の立場から論じる。受講生には生態学的思考、つまり正しい関係づけの上にたつ思考法を学んで欲しい。

【授業の展開計画】

1. 講義の全体像について
2. 生態学とは何か
3. 五感と生態学
4. 生態学と気候帯
5. 海岸の生態学 1
6. 海岸の生態学 2
7. 里海の生態学
8. 里山の生態学
9. 湿地の生態学
10. 放牧地の生態学
11. 河畔林の生態学
12. 農耕地の生態学
13. 都市の生態学
14. 照葉樹林の生態学 1
15. 照葉樹林の生態学 2

【履修上の注意事項】

追試・再試は行わない。

【評価方法】

評価はレポートまたはテストで判断する。

【テキスト】

指定しない。

【参考文献】

講義のなかで逐次紹介する。

地域経済書講読 I

担当教員 野崎 四郎

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

雇用問題、地域再生、格差社会に関する図書をじっくり読む。その過程でレポートを作成し、地域問題への理解を深める。

【授業の展開計画】

1. はじめに
2. 所得からのみ見る格差の現状と不平等の国際比較
3. 貧困と格差
4. 長期不況・雇用に広がる格差
5. 所得分配システムと構造改革
6. 新しい貧困層
7. 地域格差の実態
8. 機会の平等
9. 格差拡大と貧困者の増大
10. ニート、フリーターのゆくえ
11. 格差をどこまで認めるか
12. 競争と公平の両立は可能か
13. 地域の力を引き出す
14. 税制と社会保障制度
15. 地域雇用政策
16. 期末試験

第8章 地域社会は再生できるか

【履修上の注意事項】

【評価方法】

課題（レポート）の提出、出席状況で総合的に評価を行う。

【テキスト】

「地域再生の経済学」 神野直彦 著 中公新書

【参考文献】

その都度、コピーを配布する

地域経済書講読Ⅱ

担当教員 野崎 四郎

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

「少子・高齢化と対策等」、「自立した地域経済」と「地域再生」のシナリオについて検討する。

【授業の展開計画】

1. はじめに
2. わが国の少子化
3. 欧米諸国の家族と家族政策(Ⅰ)
4. 欧米諸国の家族と家族政策(Ⅱ)
5. 欧米諸国の家族と家族政策(Ⅲ)
6. 地域における少子化
7. 人間生活を問い直す
8. 工業社会の苦悩
9. 市場社会の限界
10. 財政の意味
11. 日本の地域社会の崩壊
12. 財政から再生させる地域社会
13. 税制改革のシナリオ
14. 知識社会に向けた地域再生
15. 地域社会は再生できるか

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

地域セミナー

担当教員 小川護・友知 政樹

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 前期・後期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

この授業は、必修科目で少人数(25名)で展開する自然環境あるいは社会文化さらには地域経済に関するテーマについてオブにバス形式で進めるゼミである。自然環境、社会文化については小川が担当し、地域経済に関することは友知が担当する。また、日帰りの野外実習を予定している。ゼミの詳細な内容や進め方については、第一回目のゼミの時間に調整する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション(授業の進め方)についての調整。
2	2～8回までは小川が担当。
3	9～15回までは友知が担当。
4	地域学習(エクスカージョン)半日を2回予定。
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

【履修上の注意事項】

この授業は必修科目で、自然環境、社会文化、地域経済についてテーマを決めて、友知、小川両教員が担当する。授業の進め方については第一回のゼミの時間(木曜日4校時)で調整するので休まないこと。

【評価方法】

出席状況、授業への参加度、レポート等で総合的に判断する。

【テキスト】

講義の中で適宜紹介する。

【参考文献】

講義の中で適宜紹介する。

地域セミナー

担当教員 野崎 四郎・崎浜 靖

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

自然環境あるいは社会環境に関するテーマについてゼミ形式で各自が調査・発表を行う。さらに、実際の沖縄の自然の仕組みや環境問題、地域経済について地域学習（エクスカージョン）も行う。

【授業の展開計画】

2007年度の実施例。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（講義の進め方について説明します）
2	テーマ：自然体験学習と博物館
3	テーマ：エコミュージアム
4	テーマ：エクスカージョン訪問先の説明・調査と発表の方法について
5	地域学習（エクスカージョン）①アクアカルチャー沖縄（サンゴの養殖現場見学）
6	地域学習（エクスカージョン）②漫湖水鳥湿地センター
7	地域学習（エクスカージョン）③沖縄県病害虫防除技術センター
8	発表準備
9	発表①（質疑応答あり）
10	発表②（質疑応答あり）
11	発表③（質疑応答あり）
12	発表④（質疑応答あり）
13	発表⑤（質疑応答あり）
14	発表⑥（質疑応答あり）
15	エクスカージョンのレポート提出・まとめ
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席状況、授業への参加度（質疑応答に積極的に参加する、など）、レポート等で総合的に判断する。

【テキスト】

特になし

【参考文献】

随時案内する。

地域セミナー

担当教員 呉 錫畢・砂川かおり

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

この授業では、沖縄の自然環境及び社会環境に関する諸問題を検討する。授業は少人数のゼミ形式で行い、毎回、各自の発表テーマに沿いながら議論する。また、地学・地理学領域に関連した3回の野外学習（フィールドワーク）を行いながら、「現場」において環境問題の実態を観察する。

【授業の展開計画】

- 第1週 地域セミナーに関するオリエンテーション
- 第2週 宜野湾飛行場の立地とその周辺の地形・地質
- 第3週 宜野湾飛行場の周辺と大山の湧水の自然観察
- 第4週 泡瀬干潟の自然観察
- 第5週 浦添城社の周辺の地形、地質及び植生の観察
- 第6週 中城城社の周辺の地形、地質及び植生の観察
- 第7週 沖縄におけるバイオ燃料の製造
- 第8週 西原町翁長でのバイオディーゼル製造の観察及び見学
- 第9週 沖縄経済振興における開発の功罪について概説
- 第10週 潟原における赤土汚染の現状
- 第11週 基地から見る辺野古経済
- 第12週 海洋博からみる沖縄経済と美瀬の環境価値
- 第13週 国頭村安波から観光経済の未来を探る
- 第14週 環境と経済に関してディベート1
- 第15週 環境と経済に関するディベート2
- 第16週 まとめ

【履修上の注意事項】

この授業は、沖縄の自然環境及び社会環境に関する諸問題を学びながら、野外学習（フィールドワーク）を行う内容になっている。特に出席を重視するので注意すること。

【評価方法】

出席状況、授業への参加度、レポート等で総合的に判断する。

【テキスト】

毎回、プリント資料を配付する。

【参考文献】

講義の中で適宜紹介する。

地域セミナー

担当教員 永田（島袋） 伊津子・上江洲 薫

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

地域セミナーは、少人数(18名ほど)で展開する。自然環境あるいは社会・経済に関するテーマについてゼミ形式で教室での授業を進めながら、同時に野外にとびだし、実際の沖縄の自然のしくみや環境問題、地域経済(金融、農業、観光、商業など)について自分の眼や耳、肌で感じ取り、考えていく地域学習(エクスカージョン)も実施する。この授業は3年次からの演習Ⅰの基礎として位置づけている。

【授業の展開計画】

本講義では、前期・後期とも教員2人が担当し、講義の前半を上江洲、後半を島袋が担当する。上江洲が担当する場合、休日に1回の巡検に実施する。流れは、①巡検前に、講師(上江洲)が講義で巡検の概要を説明し、受講生が地形図の読図を行う。②集合地で、受講者などの自家用車で同乗して移動し、最初に巡検地の資料館や博物館などで地域の概要を把握し、巡検地を徒歩で巡りながら講師が概説する。そして、受講者各自で地域調査を行い、最後に受講者が調査内容を簡単に説明する。③後日、受講者がレポートにまとめて提出する。巡検ではカメラ(必ず持参)、メジャーなどを持参。軽装、靴で参加すること。小雨決行。島袋が担当する場合、地域経済に関連するテーマを設定し、那覇市周辺で聞き取り調査を行う。事前に沖縄経済の特徴を学習し、グループでテーマを設定する。テーマに沿った質問を考え、聞き取り調査を行う。調査結果をグループで報告し、個人でレポートにまとめる。

<上江洲担当>

1. 講義説明
2. 勝連半島・伊計島巡検の場合：読図の仕方、受講生⇒歩幅測定・土地利用調査区域決定、用語等説明者決定
読谷村巡検の場合：海岸植生とエコホテル説明、受講生⇒動植物調査区域、用語等説明者決
3. 専門用語等説明の発表
4. 日曜日…巡検(前期：勝連半島・伊計島、後期：読谷村)
5. まとめ

<島袋担当>

6. 講義説明
7. 事前学習
8. 土曜日…フィールドワーク(那覇市周辺で聞き取り調査)
9. 結果報告会

【履修上の注意事項】

初回のガイダンスには必ず出席して下さい。授業内容の詳細や巡検の日程を決定し、また、出席も取ります。特に出席を重視するので注意すること。

【評価方法】

成績評価は出席および講義への参加姿勢、用語等説明の発表、レポートなどにもとづいておこなう。

【テキスト】

テキストを使用しない。

【参考文献】

(上江洲) 沖縄生物教育研究会編著『フィールドガイド 沖縄の生きものたち』(新星出版)
(島袋) 適宜指導する。

地域セミナー

担当教員 崎浜 靖・野崎四郎

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

地域セミナーは、沖縄県の地域経済や自然環境について、実際にフィールド（現地）に行き体験学習することが目的である。本セミナーでは、前半と後半で教員が交代するオムニバス形式で、地域経済については野崎が、自然環境については崎浜が担当する。

【授業の展開計画】

本セミナーは以下の2つからなる。

- (1) 沖縄県の地域経済
沖縄県の地域経済に関し、講義室での座学とフィールド見学の両方から知識を深める。
- (2) 沖縄の地形・地質・土壌・水文環境などの自然環境の特徴を、講義室での座学と野外実習（フィールドワーク）において体得する。実習後、データを処理・分析し考察を加えレポートとしてまとめる。必要があれば統計処理を行い、科学的でかつ客観的なレポート作成を学ぶ。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

単位取得には、3分の2以上の出席、課題（レポート、レジメ）の提出が必須である。評価は、演習における発言の内容やレポートの内容により総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

適宜紹介する。

統計情報処理 I

担当教員 友知 政樹

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

本講義では、回帰分析を基軸に基礎的な多変量解析法について学ぶことを目的とする。具体的には、多変量解析法の理論を理解すると同時に、実際のデータをエクセルなどの統計ソフトを利用しながら統計処理し、その方法ならびに結果の解釈について学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	基本統計量とエクセル (1)
3	基本統計量とエクセル (2)
4	基本統計量とエクセル (3)
5	相関分析 (1)
6	相関分析 (2)
7	単回帰分析 (1)
8	単回帰分析 (2)
9	重回帰分析 (1)
10	重回帰分析 (2)
11	回帰モデルの仮説検定と予測 (1)
12	回帰モデルの仮説検定と予測 (2)
13	ダミー変数 (1)
14	ダミー変数 (2)
15	最終試験
16	

【履修上の注意事項】

統計情報処理 I・II の両方を履修することが望ましい。
 予め、環境統計学 I・II もしくは統計学 I・II を履修している方が望ましい。

【評価方法】

出席状況、レポート、試験などにより総合的に評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献】

参考文献は講義時に紹介する。

統計情報処理Ⅱ

担当教員 友知 政樹

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

本講義では、回帰分析の習得を前提に、多変量解析法について発展的に学ぶことを目的とする。具体的には、多変量解析法の理論を理解すると同時に、実際のデータをエクセルなどの統計ソフトを利用しながら統計処理し、その方法ならびに結果の解釈について学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	回帰分析の復習（1）
3	回帰分析の復習（2）
4	回帰分析の復習（3）
5	時系列重回帰分析（1）
6	時系列重回帰分析（2）
7	主成分分析（1）
8	主成分分析（2）
9	主成分分析（3）
10	コンジョイント分析（1）
11	コンジョイント分析（1）
12	コンジョイント分析（2）
13	コンジョイント分析（3）
14	総まとめ
15	最終試験
16	

【履修上の注意事項】

統計情報処理Ⅰ・Ⅱの両方を履修することが望ましい。
 予め、環境統計学Ⅰ・Ⅱもしくは統計学Ⅰ・Ⅱを履修している方が望ましい。

【評価方法】

出席状況、レポート、試験などにより総合的に評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献】

参考文献は講義時に紹介する。

島嶼環境論

担当教員 名城 敏

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

沖縄のような海洋性を有する亜熱帯の島嶼の生態系は、いくつかの要素が互いに複雑に関わり合いながら成り立っている。それは、微妙なバランスの上に成り立っているため脆弱性をも有する。

本講では、島の自然環境および生態系等について学びながら島が抱えてきた諸課題と新たな課題等についてどのように対応すべきか、対応できるのか共に考えたい。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

しばしば、予告なしの試験を実施する場合がありますので注意を要する。試験問題は、講義内容に基づいて、論述形式で出題する。

【評価方法】

評価は試験の結果にもとづき行う。

【テキスト】

未定

【参考文献】

講義の中でその都度紹介する。

土壌学概論

担当教員 名城 敏

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

土壌学の分野において、土壌を自然体としてみなし、その生成や分類に関する分野をペドロジー (pedology)、農業や環境に結び付いた分野をエダホロジー (edaphology) とそれぞれ呼んでいる。土壌科学 (soil science) は両方を内包している。本講の内容は土壌科学とし、土壌学の基礎知識に加え、沖縄県に分布する土壌 (ジャーガル、島尻マージおよび国頭マージ等) の特性と環境問題 (土壌侵食や赤土等の海域流入等) との関わりについても論じていきたい。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

しばしば、予告なしの試験を実施する場合がありますので注意を要する。試験問題は、講義内容に基づいて、論述形式で出題する。

【評価方法】

評価は試験の結果にもとづき行う。

【テキスト】

未定

【参考文献】

講義の中でその都度紹介する。

農業と環境

担当教員 名城 敏

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

農業と経済

担当教員 藤原 昌樹

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

博物館学史

担当教員 久高 文美

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

博物館の歴史、目的、役割、現状などを解説し、21世紀における博物館のありかたを考察する。また、米国のスミソニアン協会博物館群のひとつである国立自然史博物館における沖縄関連コレクションを検証しながら、「もの」がもつメッセージについて講義していく。

【授業の展開計画】

- 第1回 講義概要の説明
- 第2回 文化的資料としての「もの」/コレクションの形成
- 第3回 博物館のはじまり
- 第4回 博物館の目的と役割I（資料収集）
- 第5回 博物館の役割II（資料保存）
- 第6回 博物館の役割III（研究・展示）
- 第7回 博物館の役割IV（教育普及）
- 第8回 沖縄の博物館史
- 第9回 スミソニアン国立自然史博物館における沖縄関連コレクションI
- 第10回 スミソニアン国立自然史博物館における沖縄関連コレクションII
- 第11回 博物館展示における問題点—スミソニアン航空宇宙博物館の事例
- 第12回 博物館と情報
- 第13回 博物館の現状と課題
- 第14回 博物館の可能性
- 第15回 まとめ/レポート提出

【履修上の注意事項】

【評価方法】

以下の内容で総合的に評価する。

1. 出席：講義回数の1/3の欠席は学則により、不可となります。
2. 小テスト：講義内容に関するサブライズクイズを行う。
3. 期末レポート：800字程度のレポートを課す。内容については講義の中で告知する。

【テキスト】

特にないが、講義内に必要な資料を配布する。その際、その資料類は各自責任を持って管理すること。

【参考文献】

新編博物館学 倉田公裕、梅棹忠夫対談集 博物館の思想、市民のなかの博物館 伊藤寿郎、博物館を考える
—新しい博物館学の模索 水藤真、アメリカの中の原爆論争 NHK取材班

博物館学評論

担当教員 久高 文美

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

博物館・美術館（ミュージアム）に行くという体験は、わたしたちにどのような学習効果をもたらすのか。ミュージアム体験について多角的に考察しながら、学芸員に必要な視点を養う。また、学期中グループでミュージアム体験を実際に行ってもらい、発表してもらう。

【授業の展開計画】

- 第1回 講義概要の説明
- 第2回 博物館体験（1）
- 第3回 博物館体験（2）
- 第4回 博物館体験（3）
- 第5回 来館者評価
- 第6回 展示評価
- 第7回 博物館における新たな理念（バリアフリー）
- 第8回 博物館における新たな理念（市民三画）
- 第9回 博物館における新たな理念（体験学習・ハンズオン展示）
- 第10回 博物館における新たな理念（デジタルミュージアム）
- 第11回 学芸員の現状と問題点
- 第12回 事例の調査・発表
- 第13回 事例の調査・発表
- 第14回 事例の調査・発表
- 第15回 まとめ/レポート提出

【履修上の注意事項】

【評価方法】

以下の内容で総合的に評価する。

1. 出席：講義回数 $\frac{1}{3}$ の欠席は学則により、不可となります。
2. 小テスト：講義内容に関するサプライズクイズを行う。
3. ミュージアム体験に関する発表
4. 期末レポート：800字程度のレポートを課す。内容については講義の中で告知する。

【テキスト】

特にないが、講義内に必要な資料を配布する。その際、その資料類は各自責任を持って管理すること。また、日頃から多くの博物館・美術館に足を運び、訪問者としての視野を広げておくこと。

【参考文献】

博物館体験－学芸員のために視点 ジョン・H・フォーク リン・D・ディアーキング著
雄山閣出版 1996

マクロ経済学Ⅰ

担当教員 野崎 四郎

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

マクロ経済学で扱う問題は私たちの生活に深く関係するものばかりである。たとえば、一国の国内で、ある期間に生産されたモノとサービスの総額を国内総生産というが、この国内総生産が増えれば、人々の所得も増え、物質的な生活も豊かになる。雇用機会も増えて失業者も減少する。逆に、景気が悪くなって国内総生産が減少すれば、人々の所得も減少し、暮らしは苦しくなる。企業から解雇されて失業する人も増えるし、学校を卒業しても就職先がなかなかみつからないといった事態が生ずる。マクロ経済学を実践的な立場で講義する。

【授業の展開計画】

1. マクロ経済学とは
2. 国民経済計算
3. 国民総生産と物価はどのようにして決まるか
4. 古典派モデル
5. 単純なケインズ・モデル
6. 独立支出の変化による国内総生産の変化 (Ⅰ)
7. " (Ⅱ)
8. 投資はどのようにして決まるか
9. 利率はどのようにして決まるか
10. 貨幣の需要・供給と利率
11. 流動性選好の理論と利率の決定
12. IS-LM曲線による財政金融政策の分析
13. IS-LM曲線と財政政策の効果
14. IS-LM曲線と金融政策の効果
15. 期末試験

【履修上の注意事項】

【評価方法】

試験、課題の提出、出席状況で総合的に評価を行う。試験は中間、最終を実施する。

【テキスト】

「入門マクロ経済学（第5版）」 中谷巖 著 日本評論社（2007年3月発行）

【参考文献】

「マクロ経済学」 伊藤元重 著 日本評論社入門マクロ経済学（第2版）」 井堀利宏 著 新世社

マクロ経済学Ⅱ

担当教員 野崎 四郎

配当年次 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

マクロ経済学で扱う問題は私たちの生活に深く関係するものばかりである。たとえば、一国の国内で、ある期間に生産されたモノとサービスの総額を国内総生産というが、この国内総生産が増えれば、人々の所得も増え、物質的な生活も豊かになる。雇用機会も増えて失業者も減少する。逆に、景気が悪くなって国内総生産が減少すれば、人々の所得も減少し、暮らしは苦しくなる。企業から解雇されて失業する人も増えるし、学校を卒業しても就職先がなかなかみつからないといった事態が生ずる。マクロ経済学を実践的な立場で講義する。

【授業の展開計画】

1. 物価が変化するケインズ・モデル (Ⅰ)
2. " (Ⅱ)
3. 賃金の調整と古典派モデル (Ⅰ)
4. " (Ⅱ)
5. 主要先進国の失業率とインフレ率
6. デフレーションと失業
7. 経常収支はどのようにして決まるか
8. 為替レートと輸出・輸入 (Ⅰ)
9. " (Ⅱ)
10. 純輸出と内需
11. 経済はどのようにして成長するか
12. 経済成長の源泉
13. 経済成長の源泉と計測 (Ⅰ)
14. " (Ⅱ)
15. 期末試験

【履修上の注意事項】

【評価方法】

試験、課題の提出、出席状況で総合的に評価を行う。試験は中間、最終を実施する。

【テキスト】

「マクロ経済学 (第2版)」 岩田規久男 著 新世社

【参考文献】

「マクロ経済学」 伊藤元重 著 日本評論社 入門マクロ経済学 (第2版)」 井堀利宏 著 新世社

ミクロ経済学 I

担当教員 呉 錫畢

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

人々は、どのような財を必要し、そのためにどのような資源をいかに配分・生産し、その生産物をどのように分配するかという問題に対処しなければならない。これらの課題を分析対象とするのがミクロ経済学である。本講義では経済学における基本的諸概念の正確な理解を目指す。しかし、単なる経済用語の定義の学習に留まらず、理論的把握を心がける。また、居酒屋で生ビールとつまみをどう組合せれば最も満足できる選択になるか、学問的に考察する。

【授業の展開計画】

- 1週目：ミクロ経済学とは
- 2週目：市場均衡の分析
- 3週目：需要曲線の話
- 4週目：家計所得の増加と需要曲線
- 5週目：代替材と補完財
- 6週目：消費者選好
- 7週目：消費者主権
- 8週目：均衡分析の初歩
- 9週目：均衡分析の応用
- 10週目：価格弾力性と蜘蛛の巣定理
- 11週目：無差別曲線
- 12週目：最適消費点
- 13週目：個別需要曲線
- 14週目：家計の理論の応用 1
- 15週目：家計の理論の応用 2
- 16週目：期末試験

【履修上の注意事項】

講義を聴いている人に迷惑をかけること。

【評価方法】

期末試験、レポート、出欠等を参照

【テキスト】

石川秀樹（2007）『新経済学入門Ⅱミクロ編』、中央経済社。

【参考文献】

- (1) 西村和雄（1996）『ミクロ経済学』、岩波新書。
- (2) ジョセフ・スティグリッツ（1995）『ミクロ経済学』、東洋経済新報社。

ミクロ経済学Ⅱ

担当教員 呉 錫畢

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

人々は、どのような財を必要し、そのためにどのような資源をいかに配分・生産し、その生産物をどのように分配するかという問題に対処しなければならない。これらの課題を分析対象とするのがミクロ経済学である。本講義では経済学における基本的諸概念の正確な理解を目指す。しかし、単なる経済用語の定義の学習に留まらず、理論的把握を心がける。また、居酒屋で生ビールとつまみをどう組合せれば最も満足できる選択になるか、学問的に考察する。

【授業の展開計画】

- 1週目：企業の分析
- 2週目：限界生産性逓減の法則
- 3週目：等量曲線
- 4週目：生産関数の諸性質
- 5週目：費用曲線
- 6週目：限界原理
- 7週目：短期及び長期の分析
- 8週目：不完全競争市場
- 9週目：独占市場
- 10週目：パレート最適
- 11週目：完全競争の最適性
- 12週目：公共財と外部効果
- 13週目：消費者余剰
- 14週目：ワルラス調整とマーシャル調整
- 15週目：独占産業と公益産業
- 16週目：期末試験

【履修上の注意事項】

講義を聴いている人に迷惑をかけること。

【評価方法】

期末試験、レポート、出欠等を参照

【テキスト】

石川秀樹（2007）『新経済学入門Ⅱミクロ編』、中央経済社。

【参考文献】

- (1) 西村和雄（1996）『ミクロ経済学』、岩波新書。
- (2) ジョセフ・スティグリッツ（1995）『ミクロ経済学』、東洋経済新報社。

演習 I

担当教員 小川 護

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

演習 I（経済地理学演習 I）では①経済地理学の調査・研究に必要な地域調査の考え方と手法の把握。②調査によって得られたデータを用いて基礎的なGIS地域分析手法を用いて空間的な特性の一端を明らかにする。③夏休みを利用して、名護市の地域調査を実施する予定である。後期は、この地域調査で得られたデータをもとに、分析、考察をおこない、調査者による結果報告会（発表プレゼンテーションの訓練）を実施し、最終的に報告書にまとめる。また、並行して経済地理学論文の輪読も実施する。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	経済地理学の地域調査の目的と役割	17	デジタル地図の表示と装飾②
2	調査の種類について	18	バッファーとティポリゴン
3	データの種類と資料の活用方法	19	重ね合わせ分析法①
4	仮説の構築と検証	20	重ね合わせ分析法②
5	調査票の設計と調査実施方法	21	通路ネットワーク分析法①
6	ヒアリング調査について	22	通路ネットワーク分析法②
7	調査データの集計方法の設計と実際(2回)	23	三次元表現について
8	基本統計量の説明と算出(2回)	24	GPSデータ取得とレイヤー作成
9	夏休みの地域調査準備	25	経済地理学論文購読(5海)
10	夏休みの地域調査結果発表会	26	経済地理学論文(卒論)の執筆へのとりくみ
11	空間データの種類と取得	27	報告書の配布とまとめ
12	空間データ構造	28	
13	地図測地系と座標系	29	
14	レイヤーの編集	30	
15	レイヤーの構造	31	
16	デジタル地図の表示と装飾①		

【履修上の注意事項】

出欠を重視する。課題提出は厳守のこと。演習 I での発表にあたっては発表内容等について事前に指導教授のチェックを受ける事。

【評価方法】

演習 I での出席状況、発表・発言などの参加度、課題提出等で総合的に判断する。

【テキスト】

毎回、プリントを配布する。日本地理学会『地理学評論』、人文地理学会『人文地理』など

【参考文献】

青野壽郎他著『人文地理学調査法』朝倉書店、正井泰夫他著『卒論作成マニュアル』古今書院、後藤真太郎他『MMANDARAとExcelによる市民のためのGIS講座ーパソコンで地図をつくらうー』古今書院

演習 I

担当教員 呉 錫畢

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

演習 I では、なにが環境危機を招いたか、という問題意識からスタートする。環境問題は知識のみではなかなか実感が湧いてこないのので、体験的な知識や問題意識を要求する。そして、演習の始まりは、‘なぜ?’という疑問から始まる。沖縄のサンゴ礁の破壊はなぜ?地球温暖化問題はなぜ?その疑問のなかで一つの糸口として、タダである環境に価格を付ける手法を自ら体得する基本を演習する。つまり、本演習では、‘環境はいくらか’を探り、足元から地球環境問題を熱く考察する。

【授業の展開計画】

- 1週目：学問とは
- 2週目：学問を論文で表現する
- 3週目：口頭発表の作法と技法
- 4週目：レジュメの作り方
- 5週目：環境と経済の物語 1
- 6週目：環境と経済の物語 2
- 7週目：沖縄環境問題の課題の調査
- 8週目：調査の報告と討論
- 9週目～15週目：調査の報告と討論
- 16週目：期末テスト（共同討論会）
- 17週目～21週目：夏休み中の調査をグループ別に発表と討論
- 22週目～26週目：討論結果のグループ別資料集作成及び検討
- 27週目～30週目：資料を中心にホームページへの表現技術
- 31～32週目：総括と表現の決算

【履修上の注意事項】

演習は、自分の問題意識を持つことが大事である。

【評価方法】

発表や討論を参照

【テキスト】

小林・船曳編（1994）、『知の技法』、東京大学出版会。

【参考文献】

- ①藤崎成昭編（1992）、『発展途上国の環境問題（豊かさの代償・貧しさの病）』、アジア経済研究所。
- ②鶴見良行（1992）、『ナマコの眼』（ちくま学芸文庫）、筑摩書房。

演習 I

担当教員 根路銘 もえ子

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

本演習では、沖縄の主力産業である観光産業の現状を把握し、今後の発展について議論する。また、観光情報産業において活用されている地理情報システム（GIS）の基本についての学習も行い、観光産業と情報産業の融合について考える。

【授業の展開計画】

演習形態としては、インターネットおよび現地調査による観光に関する情報の収集、収集データの分析、文献の講読、データ分析結果・文献内容の発表、議題に関する議論を行う。

GISの基本的機能の学習内容としては、空間データの種類や空間データ構造、地図測地系・座標系、レイヤ構造・編集、デジタル地図の表示や各種分析法について学習する。

可能であれば、Webコンテンツの制作基礎技術についても学習する。

- (1) データ収集・分析手法の学習
- (2) 観光産業の現状把握
「観光白書」等の講読
個人単位で分担箇所の解説。
- (3) 観光に関するテーマに関する調査
グループ単位でテーマに関する調査および発表（グループ学習）
- (4) GISに関する学習
GISの基本的機能を学習。
- (5) GISを利用した観光情報提供
グループ単位で観光情報への応用を検討する。（グループ学習）
- (6) Webコンテンツ制作に関する調査
Webコンテンツ制作の基礎技術の習得。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席状況、レポート、研究発表内容により総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは講義時に指定する。

【参考文献】

参考文献は講義時に紹介する。

演習 I

担当教員 島袋 伊津子

配当年次 3年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

- ・金融論の入門書を講読し、基礎的な知識を定着させる。
- ・金融の面から地域経済・環境政策について理解を深める。

【授業の展開計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 レジュメ、レポート、論文の書き方（1）Word・Excel・Power Pointの使い方
- 第3回 レジュメ、レポート、論文の書き方（2）文の読み方、情報収集の方法
- 第4回 レジュメ、レポート、論文の書き方（3）プレゼンテーションの方法
- 第5回～ テキストを輪読する。各自担当箇所についてレジュメを作成し、報告する。

【履修上の注意事項】

以下のような方がこの演習に適していると思います。

- ・金融、経済に関心がある。
- ・通常授業だけでなく、課外での活動に積極的に参加できる。

関連科目：「金融論 I・II」「国際金融論 I・II」「ファイナンシャルプランニング」「証券市場論 I・II」

【評価方法】

2/3以上の出席、宿題・レポート提出、報告を単位取得の条件とします。

【テキスト】

「入門 証券論」榊原茂樹、他（著）有斐閣
「ファースト・ステップ金融論」岸真清・藤波大三郎（著）経済法令研究会

【参考文献】

「入門金融」吉野直行・高月昭年（編著）有斐閣
「エコノミクス入門金融」池尾和人（編著）ダイヤモンド社

演習 I

担当教員 友知 政樹

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

本演習 I の目的は、地域環境政策の立案・実施・評価に関連付けた社会調査の全段階を体験・学習することを通して、社会調査の理論と方法を体得することである。概要は、社会調査の理論と方法を教科書や先行研究より事前に学習し、地域環境政策の立案・実施・評価を行うとの想定のもと、それに必要な社会調査を設計・実施し、収集したデータを分析し、報告書にまとめることである。社会調査はキャンパス内外で行う予定である。

【授業の展開計画】

- ① 4月～5月 社会調査に関する事前学習
- ② 6月～7月 政策ならびに調査テーマの設定
- ③ 8月～9月 調査準備
- ④ 10月 第1回目調査の実施と結果の分析
- ⑤ 11月 政策の立案と実施
- ⑥ 12月 第2回目調査の実施と結果の分析
- ⑦ 1月～3月 総まとめと報告書作成

【履修上の注意事項】

政策により世の中を良くしたいという熱い思いのある学生を求む。

【評価方法】

ゼミへの貢献度や提出物などにより総合的に評価する。

【テキスト】

『社会調査へのアプローチ—論理と方法（第2版）』 大谷信介(著), 後藤範章(著), 永野武(著), 木下栄二(著), 小松洋(著). ミネルヴァ書房(2005/02).

【参考文献】

随時紹介する。

演習 I

担当教員 新垣 武

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

演習 I

担当教員 野崎 四郎

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

沖縄経済論 I

担当教員 友知 政樹

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

本講義の目的は様々なデータを通して近年における沖縄の経済的特性を理解することにある。沖縄の現状を踏まえた上で、沖縄のこれからの展望について考える。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	沖縄の地勢と土地利用
3	沖縄の人口と雇用・失業
4	沖縄の県民所得・賃金・家計・物価
5	沖縄の産業 01 (農林漁業・製造業・建設業・その他)
6	沖縄の産業 02 (観光産業)
7	沖縄の産業 03 (金融・IT産業)
8	沖縄の財政 01 (県および市町村の財政)
9	沖縄の財政 02 (県および市町村の財政)
10	沖縄の基地と経済 01
11	沖縄の基地と経済 02
12	沖縄の環境問題と経済 01
13	沖縄の環境問題と経済 02
14	まとめ
15	最終試験
16	

【履修上の注意事項】

沖縄経済論 I ならびに沖縄経済論 II (野崎先生担当・後期) の両方を履修することが望ましい。

【評価方法】

小テスト、最終試験などにより総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

・沖縄経済の幻想と現実／来間泰男／日本経済評論社／1998 ・図説 沖縄の経済／大城郁寛 (他)／東洋企画／2007 ・その他多数あるので、講義ガイダンスの際に若しくは講義の度に随時紹介する…

沖縄経済論Ⅱ

担当教員 野崎 四郎

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

沖縄経済論Ⅱでは、下記の講義を行う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	はじめに
2	沖縄経済の概要
3	人口の長期的変化
4	労働力・雇用・失業
5	新規学卒者の職業対応
6	経済自立化の模索と復帰対策
7	復帰特別措置の成果
8	沖縄振興開発特別措置と財政
9	沖縄振興開発特別措置と社会資本整備の効果
10	特異な市中金融と政策金融
11	家計所得と資産、ジニ係数でみた格差
12	観光・リゾート産業の進展
13	産業連関表からみた沖縄経済の特徴
14	沖縄経済のポテンシャルとデメリット
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

課題（レポート）の提出、出席状況で総合的に評価を行う。

【テキスト】

その都度、コピーを配布する

【参考文献】

その都度、コピーを配布する

環境アセスメント I

担当教員 新垣 武

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

道路建設、港湾建設、ダム建設等、各種開発事業の実施による環境への影響を事前に予測評価して、その対策を検討することが良好な環境を保全し、持続可能な開発を行うために、必要不可欠となっている。環境アセスメント I では、このような環境影響評価の実施に関連する法律、現地調査手法、予測評価手法等について学ぶ。

【授業の展開計画】

1. 講義ガイダンス（環境アセスメントとは）、テキスト・参考図書の紹介等
2. 環境影響評価に関する法律（環境影響評価法）
3. 環境影響評価に関する法律（沖縄県環境影響評価条例）
4. 大気質の環境影響評価（現況調査）
5. 大気質の環境影響評価（予測と評価）
6. 騒音の環境影響評価
7. 振動の環境影響評価
8. 中間テスト
9. 悪臭の環境影響評価
10. 水質の環境影響評価（現況調査）
11. 水質の環境影響評価（予測と評価）
12. 生態系の環境影響評価（現況調査）
13. 生態系の環境影響評価（予測と評価）
14. 景観等の環境影響評価
15. 環境アセスメント I の総括

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席状況、期末テストおよびレポート提出等より総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは特に指定しない。

【参考文献】

参考文献は適宜紹介する。

環境アセスメント II

担当教員 新垣 武

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

環境アセスメント I では、環境影響評価の実施に関連する法律、現地調査手法、予測評価手法等について講義を行ったが、環境アセスメント II ではいくつかの事業（道路建設、空港建設、港湾建設など）の環境影響評価事例について紹介する。また、環境影響評価の項目の中で、大気、騒音、振動、水質、景観等について、数値シミュレーション等により影響を予測評価する。

【授業の展開計画】

- 1 週目 講義内容紹介
- 2-7 週目 各種事業（道路建設、空港建設、港湾建設等）の事例紹介
- 8 週目 中間テスト
- 9-15 週目 大気質、騒音、振動、水質予測評価手法（シミュレーション）の紹介

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席状況、テスト、レポートなどに基づき評価する。

【テキスト】

テキストは特に指定しない。

【参考文献】

参考文献は適宜紹介する。

環境会計

担当教員 井口 千秋

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

「21世紀は環境の世紀」などと言われていますが、環境問題について行動するためには、環境にはどのような問題がありそれに対する解決策にはどんなものがあるのかという知識がなければ、気持ちがあっても行動はできません。そこで、本講義では環境問題について会計技術の側面から、環境会計の実態把握と企業の環境会計のあり方について理解を深めていただき、環境人としての知識を深めて頂きます。

【授業の展開計画】

1. レポートの書き方
 2. 環境学とは
 3. 会計学とは
 4. 環境会計とは
 - (ア) ISO14001
 - (イ) 環境庁ガイドライン
 - (ウ) 環境情報の開示
 5. 最新事例に学ぶ
- おわりに

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席，授業参加 50%
期末レポート 50%

【テキスト】

【参考文献】

環境経営

担当教員 井口 千秋

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

「21世紀は環境の世紀」などと言われていますが、環境問題について行動するためには、環境にはどのような問題がありそれに対する解決策にはどんなものがあるのかという知識がなければ、気持ちがあっても行動はできません。そこで、本講義では環境問題について企業経営の側面から、環境経営の実態把握と企業の環境政策のあり方について理解を深めていただき、環境人としての知識を深めて頂きます。

【授業の展開計画】

1. レポートの書き方
2. 環境学
3. 経営学
4. 企業の環境責任
(ア) ISO14000
5. 環境経営
(ア) 環境監査
(イ) 環境マネジメントシステム
(ウ) 環境パフォーマンス
(エ) 環境ラベル
(オ) ライフサイクルアセスメント

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席，授業参加 50%
期末レポート 50%

【テキスト】

【参考文献】

環境経済学 I

担当教員 呉 錫畢

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

地球温暖化の問題がかつてなく大きくクローズアップされている今日である。何が地球環境問題をもたらしたのか。経済要因なきには語れない環境問題であるが、経済成長への優先は環境の犠牲をもたらす。しかし、環境を重視すれば経済成長の停滞を感受しなければならない。つまり経済成長と環境は効率と公正との緊張関係にあるのである。このような問題意識に基づいて、環境経済学の理論のみならず、身近な沖縄の環境問題を経済学の観点より分かりやすく解説する。そして、無味乾燥ではない五感で感じる環境経済学の講義になる。

【授業の展開計画】

- 1週目：環境と経済の話1
- 2週目：環境と経済の話2
- 3週目：環境問題と市場の失敗
- 4週目：環境破壊の経済的メカニズム
- 5週目：市場と外部経済
- 6週目：地球温暖化の経済学
- 7週目：二酸化炭素と生活
- 8週目：エネルギー経済
- 9週目：環境政策の手段
- 10週目：環境税と環境規制
- 11週目：排出権取引 1
- 12週目：排出権取引 2
- 13週目：沖縄経済の特徴
- 14週目：沖縄経済のディレンマ
- 15週目：沖縄経済発展と観光財
- 16週目：期末試験

【履修上の注意事項】

環境と経済に対して問題意識を持つこと。講義を聴いている人に迷惑をかけること。

【評価方法】

期末試験、レポート、出欠等を中心に評価する。

【テキスト】

呉錫畢 (2008) 『環境・経済と真の豊かさーテーゲー経済学序説ー』、日本経済評論社。

【参考文献】

- (1) 呉錫畢 (1999) 『環境政策の経済分析』、日本経済評論社。
- (2) 植田和弘 (1997) 『環境経済学』、岩波新書。その他、テーマに添って随時紹介する。

環境経済学Ⅱ

担当教員 呉 錫畢

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

本講義は、沖縄のサンゴ礁の持つ生態系や景観のような自由財の非利用価値を測り、地域経済の発展や豊かさの観点より環境経済学の視点より概説する。そして、自然の尊さを沖縄サンゴ礁の貨幣評価で表現し、沖縄観光経済の現在と将来を診断するとともに、さらに沖縄文化でもあるテーゲーの経済学化を試み、真の豊かさとは何かについて考察し、さらに真の豊かさから見る経済発展の新たなパラダイムを提示する。

【授業の展開計画】

- 1週目：環境はいくらか
- 2週目：CVM(仮想市場評価法)
- 3週目：赤土汚染からみる沖縄の地域振興と開発の功罪
- 4週目：赤土汚染による生態系及び環境の損害評価
- 5週目：沖縄におけるサンゴ礁の現状
- 6週目：サンゴ礁の生態系及び景観の経済評価
- 7週目：環境と沖縄の観光経済
- 8週目：竹富島とピノキオ観光
- 9週目：成長するアイルランド観光
- 10週目：アイルランド観光経済と沖縄観光
- 11週目：沖縄経済と済州経済
- 12週目：沖縄と済州の観光産業
- 13週目：内発的発展からみる沖縄経済の発展可能性
- 14週目：環境・経済・沖縄
- 15週目：真の豊かさとテーゲー経済学
- 16週目：期末試験

【履修上の注意事項】

環境と経済に対して問題意識を持つこと。講義を聴いている人に迷惑をかけること。

【評価方法】

期末試験、レポート、出欠等を中心に評価する。

【テキスト】

呉錫畢 (2008) 『環境・経済と真の豊かさーテーゲー経済学序説ー』、日本経済評論社。

【参考文献】

- (1) 呉錫畢 (1999) 『環境政策の経済分析』、日本経済評論社。
- (2) 植田和弘 (1997) 『環境経済学』、岩波新書。その他、テーマに添って随時紹介する。

環境評価実践論

担当教員 野崎 四郎

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

環境評価入門

担当教員 呉 錫畢

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

沖縄はさんご礁を含めて美しい自然や、また沖縄独特な文化をもっている。このような環境は多くの観光客を呼び寄せ、沖縄経済にとって欠かせない要因ともなっている。しかし、近年、開発等によってさんご礁が破壊されたり、海も汚れる傾向が目立っている。その原因の一つにその財が市場を経ず、ただで使用され、つまり、環境の価値が正当に評価されていないことにある。本講義では、自然や文化の価値評価の手法について分かりやすく紹介する。

【授業の展開計画】

- 1週目：環境の価値とは
- 2週目：環境コストと環境ベネフィット
- 3週目：環境政策における環境評価の位置づけ
- 4週目：環境評価の環境政策への適用
- 5週目：CVMの背景及び理論的な背景
- 6週目：CVM評価の基礎
- 7週目：CVM評価の事例
- 8週目：. 旅行費用法 (Travel Cost) の基礎
- 9週目：旅行費用法の事例
- 10週目：ヘドニック法の基礎
- 11週目：ヘドニック法の事例
- 12週目：環境評価の実習1
- 13週目：環境評価の実習2
- 14週目：発表及び討論1
- 15週目：発表及び討論2
- 16週目：環境価値評価の総括

【履修上の注意事項】

環境と経済に対して問題意識を持つこと。講義を聴いている人に迷惑をかけること。

【評価方法】

発表とレポート、出欠等を基準として評価する

【テキスト】

- ① 栗山浩一 (2000) 『環境評価と環境会計』, 日本評論社を中心にするが、作成した資料を配布。

【参考文献】

- ① 呉錫畢 (2002) 『慶良間諸島におけるさんご礁の生態系及び景観の価値評価』、亜熱帯総合研究所。
- ② 鷺田豊明・栗山浩一 (1998) 『環境評価ワークショップ』、築地書店。

観光経済論

担当教員 喜久川 宏

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

観光情報論

担当教員 根路銘 もえ子

配当年次 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

本講義は、観光と情報の関係を学習することによって、観光情報について理解することを目的とする。具体的には、観光情報メディアとしてのインターネット、観光情報収集システム、観光情報提供システムについて学習することによって、今後、観光情報をどのように収集し、提供すれば良いかを考える。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	観光情報とは（1）
3	観光情報とは（2）
4	観光空間情報とは（1）
5	観光空間情報とは（2）
6	観光情報産業
7	観光情報とインターネット
8	インターネットによる情報収集（1）
9	インターネットによる情報収集（2）
10	旅行会社の取り組み（1）
11	旅行会社の取り組み（2）
12	インターネットにおける競争
13	観光産業における情報システム
14	観光情報提供システム（1）
15	観光情報提供システム（2）
16	

【履修上の注意事項】

仮登録者が登録上限数を上回った場合、「初回講義時」に抽選を行う。仮登録人数に応じて、学年毎に登録上限数を同割合で設定し抽選する。

【評価方法】

出席状況、レポート、試験を総合的に評価する。

【テキスト】

講義中にレジメを配布する。

【参考文献】

参考文献は講義時に紹介する。

金融論 I

担当教員 島袋 伊津子

配当年次 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

金融論の基礎的な知識を定着させる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	金融とは何か
3	企業の金融行動
4	家計の金融行動
5	政府の金融行動
6	金融機関
7	金融市場
8	わが国の金融制度 (1)
9	わが国の金融制度 (2)
10	金融のミクロ理論 (1)
11	金融のミクロ理論 (2)
12	金融のミクロ理論 (3)
13	金融政策 (1)
14	金融政策 (2)
15	金融政策 (3)
16	

【履修上の注意事項】

- ・講義内容は変更することがあります。
- ・後期開講の「金融論Ⅱ」は「金融論Ⅰ」の知識を前提として進めます。
- ・「国際金融論Ⅰ・Ⅱ」、「ファイナンシャルプランニング」、「証券市場論Ⅰ・Ⅱ」を併せて履修することをおすすめします。

【評価方法】

学期末試験（自筆ノートのみ持込可）、小テスト

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

- 「入門金融」吉野直行・高月昭年(編著) 有斐閣
「エコノミクス入門金融」池尾和人(編著) ダイヤモンド社

金融論Ⅱ

担当教員 島袋 伊津子

配当年次 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

金融に関する発展的・実地的な知識を定着させる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	企業の資本構成と企業価値
3	株主主体のガバナンス
4	銀行主体のガバナンス
5	金融市場の基本設備（1）—証券取引所・法制度—
6	金融市場の基本設備（2）—規制監督・情報提供機関—
7	銀行規制
8	政策金融
9	年金・保険の基礎知識（学外講師による講演を予定）
10	新しい金融手法と家計の資産選択
11	情報化と金融業
12	損害保険の基礎知識（学外講師による講演を予定）
13	日本銀行と金融政策
14	情報の経済学と金融のミクロ理論（1）
15	情報の経済学と金融のミクロ理論（2）
16	

【履修上の注意事項】

- ・講義内容は変更することがあります。
- ・「金融論Ⅱ」は、前期開講の「金融論Ⅰ」の知識を前提として進めます。
- ・「国際金融論Ⅰ・Ⅱ」、「ファイナンシャルプランニング」、「証券市場論Ⅰ・Ⅱ」を併せて履修することをおすすめします。

【評価方法】

学期末試験（自筆ノートのみ持込可）、小テスト

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献】

- 「入門金融」 吉野直行・高月昭年（編著）有斐閣
「エコノミクス入門金融論」 池尾和人（編著）ダイヤモンド社

計量経済学 I

担当教員 友知 政樹

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

本講義の目的は、多変量解析法のひとつである回帰分析を基軸に計量経済学の基礎を学ぶことである。具体的には、計量経済学の理論を理解すると同時に、実際のデータをエクセルなどの統計ソフトを利用して統計処理し、その方法ならびに結果の解釈についての理解を深めいく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	基本統計量とエクセル (1)
3	基本統計量とエクセル (2)
4	基本統計量とエクセル (3)
5	単回帰モデル (1)
6	単回帰モデル (2)
7	重回帰モデル (1)
8	重回帰モデル (2)
9	重回帰モデル (3)
10	回帰モデルの仮説検定 (1)
11	回帰モデルの仮説検定 (2)
12	ダミー変数 (1)
13	ダミー変数 (2)
14	総まとめ
15	最終試験
16	

【履修上の注意事項】

計量経済学 I・IIの両方を履修することが望ましい。

予め、環境統計学I・IIもしくは統計学I・IIを履修している方が望ましい。

予め、統計情報処理I・IIを履修している方が望ましい。

【評価方法】

・講義の評価は、出席状況、レポート、小テスト、最終試験などにより総合的に評価する。・出席回数が2/3に満たない者には単位を与えない。(公欠を除く)

【テキスト】

[例題で学ぶ] 初歩からの計量経済学、白砂堤津耶(著)、日本評論社(¥2,800+税)。

【参考文献】

・計量経済学、田中勝人(著)、岩波書店(¥2,100+税)。・計量経済学、山本拓(著)、新世社(¥3,300+税)。
・計量経済学、浅野哲・中村二郎(共著)、有斐閣(¥3,000+税)。

計量経済学Ⅱ

担当教員 友知 政樹

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

本講義の目的は、多変量解析法のひとつである回帰分析を基軸に計量経済学の基礎を学ぶことである。具体的には、回帰分析における多重共線性や系列相関の問題の理解を深め、さらに連立方程式モデルや産業連関分析についても学ぶ。その際、実際のデータをエクセルなどの統計ソフトを利用しながら理解を深めていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	回帰モデルの復習 (1) 単回帰モデル
3	回帰モデルの復習 (2) 重回帰モデル
4	回帰モデルの復習 (3) ダミー変数
5	多重共線性 (1)
6	多重共線性 (2)
7	系列相関 (1)
8	系列相関 (2)
9	連立方程式モデル (1)
10	連立方程式モデル (2)
11	連立方程式モデル (3)
12	産業連関分析 (1)
13	産業連関分析 (2)
14	総まとめ
15	最終試験
16	

【履修上の注意事項】

計量経済学Ⅰ・Ⅱの両方を履修することが望ましい。

予め、環境統計学Ⅰ・Ⅱもしくは統計学Ⅰ・Ⅱを履修している方が望ましい。

予め、統計情報処理Ⅰ・Ⅱを履修している方が望ましい。

【評価方法】

- ・講義の評価は、出席状況、レポート、小テスト、最終試験などにより総合的に評価する。
- ・出席回数が2/3に満たない者には単位を与えない。(公欠を除く)

【テキスト】

[例題で学ぶ] 初歩からの計量経済学、白砂堤津耶(著)、日本評論社(¥2,800+税)。

【参考文献】

- ・計量経済学、田中勝人(著)、岩波書店(¥2,100+税)。
- ・計量経済学、山本拓(著)、新世社(¥3,300+税)。
- ・計量経済学、浅野哲・中村二郎(共著)、有斐閣(¥3,000+税)。

公害概論

担当教員 山川（矢敷） 彩子

配当年次 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

本講義では、世界における公害問題の歴史、戦前の公害、戦後の高度経済成長期の公害問題、国による法整備、産業界の努力による公害の克服について紹介する。最後に、最近メディアにも良く取り上げられている中国など発展途上国における公害問題も取り上げる。

【授業の展開計画】

講義では基本的に以下の内容を実施するが、講義の順番や内容は変更することがある。

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	海外・日本における公害の歴史
3	戦前の法規制
4	戦後の4大公害（イタイイタイ病）（1）
5	戦後の4大公害（イタイイタイ病）（2）
6	戦後の4大公害（水俣病）（1）
7	戦後の4大公害（水俣病）（2）
8	戦後の4大公害（四日市ぜんそく）
9	先進国から輸出された公害
10	公害と法規制の歴史
11	生活環境の問題（1）
12	生活環境の問題（2）
13	生活環境の問題（3）
14	中国における公害
15	総括、16回目に期末試験
16	

【履修上の注意事項】

登録調整期間の出席状況も評価に反映する。
 欠席理由に関わらず、3分の1以上の欠席は不可となる。
 出席で代筆が明らかとなった場合は不可となる。
 最終年次においても追試は実施しないので気をつけること。

【評価方法】

出席状況、試験およびレポートの内容により総合的に評価する。3分の1以上の欠席、課題の未提出、試験を欠席した学生には単位を与えない。

【テキスト】

テキストは指定しない。

【参考文献】

20世紀の日本環境史（産業環境管理協会）
 環境循環型社会白書 平成20年版（環境省ホームページで閲覧可能）

交通経済論

担当教員 藤原 邦夫

配当年次 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

本科目では交通経済学の理論と政策について講義する。はじめに、交通の基礎的事項を、つぎに、理論的内容を取り上げる。理論的内容に関しては、授業時間数が少ないので、次の二つの項目にしばって講義する。その項目とは、ひとつは交通需要であり、もうひとつは交通部門に対する政府の規制とその緩和である。これらの項目を選んだ理由は、これらが今日の交通の問題やあり方を考える上で重要であるからである。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	交通の定義と交通に類似する用語の定義
3	交通技術とその歴史
4	交通形態の変遷
5	交通の機能と意義
6	交通経済学とは何か
7	交通サービスとは何か
8	交通需要の意味と性質
9	交通需要に影響を与える要因
10	交通需要の弾力性とその計測値
11	交通政策の効果
12	財の性質にもとづく財の分類と交通サービスの位置づけ
13	交通部門に対する政府の介入の経済学的根拠
14	交通部門に対する政府の介入と規制緩和
15	テスト
16	

【履修上の注意事項】

毎回出席をとる。欠席を最小限にすること。授業中の私語を慎むこと。

【評価方法】

テストにもとづいておこなう。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献】

山内弘隆・竹内健蔵「交通経済学」有斐閣、藤井弥太郎・中条潮「現代交通政策」東京大学出版会、角本良平「新・交通論」白桃書房

国際経済論 I

担当教員 当銘 学

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

国の経済活動の領域は拡大し、もはや一国では経済が成り立たない。国際金融制度の歴史の変遷を概観し、米国を軸とする新たな世界経済の枠組みである、「ドル本位制」=「IMF体制」、から貿易システムである「GATT～WTO体制」、そして「ニクソン・ショック」を契機とする「変動相場制」、乱高下する「為替レート」、「金利」、「為替」の変動に伴う「資本移動」、「為替投機」等の国際経済のキーワードを軸に歴史的・総括的に整理し理解することで世界経済の課題を考察する。

【授業の展開計画】

テキストに沿って講義を進める。関連するビデオや経済誌等の記事も活用する。

週	授 業 の 内 容
1	Introduction
2	グローバル経済と日本
3	グローバル化と日本経済構造
4	世界経済の潮流
5	戦前(～1914年)の国際経済体制
6	戦中の国際経済動向
7	戦後(1945年～)の国際経済体制
8	中間テスト
9	為替レートと日本経済
10	外国為替市場と為替レート
11	為替投機
12	外国為替市場への介入
13	為替レートの決定と変動の理論
14	現在における多様な通貨制度
15	総括 16回目に期末テストを行います
16	

【履修上の注意事項】

時事経済に関心をもつこと。テスト解答にはテキスト購入し、精読することが要求される。

【評価方法】

1000点満点 出席点：600点、テスト400点(中間・期末、各200点満点)
テストと出席状況、授業参加態度により総合的に評価する。

【テキスト】

『ゼミナール国際経済入門』 伊藤元重著 (日本経済新聞社出版)。テキスト購入は必須。

【参考文献】

『世界経済入門』 西川 潤著 (岩波新書出版)、 『世界に格差をバラ撒いたグローバリズムを正す』 ジョセフEスティグリッツ著 (徳間書店出版)など

国際経済論Ⅱ

担当教員 当銘 学

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

加速する経済のグローバル化。国境を越えた多様な経済活動、すなわち貿易・国際投資・資金移動・技術移転・多国籍企業などの動きを通して、変動し続ける国際経済の動向を分析し、そして世界経済の潮流の中の日本経済の位置づけを試みる、グローバル化に伴う「国際収支」変動による「経常収支」問題から「マクロ政策」と「資本移動」の関係を分析し、「市場統合」「通商問題」「WTO協定」「直接投資」等の国際経済のキーワードを軸に総合的に整理し理解することで世界経済の課題を考察する。

【授業の展開計画】

テキストに沿って講義を進める。関連するビデオや経済誌等の記事も活用する。

週	授 業 の 内 容
1	Introductionと前期の復習
2	国際化するマクロ経済
3	国際収支とはなにか
4	国際マクロ経済学
5	拡大する国際金融取引
6	累積債務問題
7	中間テスト
8	貿易の基礎理論
9	通商問題の変貌
10	産業構造の調整問題
11	規模の経済性のもとでの貿易
12	WTO体制の機能と課題
13	拡大する直接投資
14	直接投資の理論とインパクト
15	総括 16回目に期末テストを行います
16	

【履修上の注意事項】

時事経済に関心をもち、テスト解答にはテキスト購入し、精読することが要求される。

【評価方法】

1000点満点 出席点：600点、テスト400点(中間・期末、各200点満点)
テストと出席状況、授業参加態度により総合的に評価する。

【テキスト】

『ゼミナール国際経済入門』 伊藤元重著 (日本経済新聞社出版)。

【参考文献】

『世界経済入門』 西川 潤著 (岩波新書出版)、 『世界に格差をバラ撒いたグローバリズムを正す』 ジョセフEスティグリッツ著 (徳間書店出版) など

産業連関論の応用

担当教員 -奥平 均

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

産業連関論の基礎

担当教員 奥平 均

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

社会調査演習

担当教員 上江洲 薫

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

本授業の目的は、受講生が社会調査のすべての段階を経験することによって、社会調査の理論と方法を体得することである。具体的には、少人数の単位のグループごとに調査テーマを決定し、学内の学生や学外の事業社や地域住民などを対象に、量的調査や質的調査を実施し、収集したデータを分析した後に報告書を作成する。

【授業の展開計画】

以下の順序にしたがって社会調査法の実習をおこなう。①調査テーマの決定（4月）、②調査テーマに関する現状と課題調査（5月）、③調査テーマに関する既存のデータ分析（6月）、④調査企画書（対象者・対象地域等）の作成（6月）、⑤調査票の作成とサンプリングの実施（7月）、⑥調査票の再考・作成（10月）、⑦調査の実施（11～12月）、⑧調査データの集計と分析、SPSSの使用方法（12月）、⑨調査報告書の作成（1～2月）

【履修上の注意事項】

原則としてオール出席を求める。本科目の登録は、社会調査論Ⅰと社会調査論Ⅱの試験を受けており、ⅠとⅡのうち少なくとも一方の科目の単位を取得している学生に限る。

【評価方法】

成績評価は教室での発表内容（30点）と調査報告書の水準（40点）、出席および講義への参加姿勢（30点）にもとづいておこなう。

【テキスト】

テキストを使用しない。また、配布資料を使用（A4ファアイルを用意すること）。

【参考文献】

大谷信介他編著（2005）『社会調査へのアプローチ—論理と方法—』（第2版）ミネルヴァ書房。盛山和夫（2004）『社会調査法入門』有斐閣。佐藤郁哉『フィールドワーク』（新曜社）

情報産業論

担当教員 根路銘 もえ子

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

本講義は、情報産業について学習することによって、情報に関する広い視野を養い、情報産業の将来を展望する能力を身に付けることを目的とする。具体的には、情報産業への発展過程をはじめ、コンピュータ産業の現状、コンテンツ産業、メディア産業、インターネットビジネス、移動体通信および情報ビジネスについて学ぶことにより、今後の情報産業の動向や情報産業の発展が現代社会にどのような変化をもたらすのかについて考察する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	産業の流れ
3	通信インフラと電話ビジネス（1）
4	通信インフラと電話ビジネス（2）
5	コンピュータおよび家庭用IT機器（1）
6	コンピュータおよび家庭用IT機器（2）
7	コンピュータおよび家庭用IT機器（3）
8	ユビキタス・コンピューティング（1）
9	ユビキタス・コンピューティング（2）
10	ユビキタス・コンピューティング（3）
11	インターネットビジネス（1）
12	インターネットビジネス（2）
13	eコマース
14	金融サービス
15	著作権とセキュリティ
16	

【履修上の注意事項】

仮登録者が登録上限数を上回った場合、「初回講義時」に抽選を行う。仮登録人数に応じて、学年毎に登録上限数を同割合で設定し、抽選する。

【評価方法】

出席状況、レポート、試験を総合的に評価する。

【テキスト】

講義中にレジメを配布する。

【参考文献】

参考文献は講義時に紹介する。

情報社会論

担当教員 根路銘 もえ子

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

本講義は、情報と社会の関係を学習することによって、情報社会について理解することを目的とする。情報および情報化が果たしてきた役割を理解することによって、社会、生活、企業、経済などに与えている影響について考察する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	情報・情報化・情報社会
3	経済と情報化（1）
4	経済と情報化（2）
5	ユーザインターフェース
6	情報とネットワーク
7	情報ネットワークの通信プロトコル
8	情報ネットワークの仕組み
9	インターネットと情報システム
10	情報システム
11	社会基盤としての情報システム
12	情報社会におけるコミュニケーション（1）
13	情報社会におけるコミュニケーション（2）
14	情報科学技術の将来（1）
15	情報科学技術の将来（2）
16	

【履修上の注意事項】

仮登録者が登録上限数を上回った場合、「初回講義時」に抽選を行う。仮登録人数に応じて、学年毎に登録上限数を同割合で設定し抽選する。

【評価方法】

出席状況、レポート、試験を総合的に評価する。

【テキスト】

講義中にレジメを配布する。

【参考文献】

参考文献は講義時に紹介する。

政策金融論

担当教員 照屋 健

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

地域開発論

担当教員 高嶺 晃

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

地域経済学 I

担当教員 野崎 四郎

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

地域経済学（Ⅰ、Ⅱ）では、空間の存在が資源配分に与える影響を明らかにして、経済主体の空間的配置と空間相互の関係について探求することを目的とする。また、現実の地域経済が抱える様々な問題に対して解決策を検討する。この講義と並行してマクロ経済学（Ⅰ、Ⅱ）や産業連関論の基礎と応用を受講する事が望ましい。

【授業の展開計画】

1. 地域経済学の課題
2. 日本の地域構造
3. 地域経済と所得形成
4. 地域の産業連関分析
5. 地域成長の経済分析
6. 地域間交易の理論
7. 地域間格差と人口移動
8. 地方財政と地方分権（Ⅰ）
9. 地方財政と地方分権（Ⅱ）
10. 地域と雇用（Ⅰ）
11. 地域と雇用（Ⅱ）
12. 土地問題と土地政策
13. バブルと地域
14. 全国総合開発の変遷
15. 期末試験

【履修上の注意事項】

【評価方法】

試験、課題レポートの提出、出席状況で総合的に評価を行う。試験は中間、最終を実施する。

【テキスト】

地域経済学入門 山田浩之 著 有斐閣

【参考文献】

地域経済学Ⅱ

担当教員 野崎 四郎

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

地域経済学（Ⅰ、Ⅱ）では、空間の存在が資源配分に与える影響を明らかにして、経済主体の空間的配置と空間相互の関係について探求することを目的とする。また、現実の地域経済が抱える様々な問題に対して解決策を検討する。この講義と並行してマクロ経済学（Ⅰ、Ⅱ）や産業連関論の基礎と応用を受講する事が望ましい。

【授業の展開計画】

1. 地域経済学の課題
2. 日本の地域構造
3. 地域経済と所得形成
4. 地域の産業連関分析
5. 地域成長の経済分析
6. 地域間交易の理論
7. 地域間格差と人口移動
8. 地方財政と地方分権（Ⅰ）
9. 地方財政と地方分権（Ⅱ）
10. 地域と雇用（Ⅰ）
11. 地域と雇用（Ⅱ）
12. 土地問題と土地政策
13. バブルと地域
14. 全国総合開発の変遷
15. 期末試験

【履修上の注意事項】

【評価方法】

試験、課題レポートの提出、出席状況で総合的に評価を行う。試験は中間、最終を実施する。

【テキスト】

地域経済学入門 山田浩之 著 有斐閣

【参考文献】

地理情報システム論 I

担当教員 渡辺 康志

配当年次 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

本講義は実際にGISソフトを操作し実習形式で地図作成や空間分析などの地理情報システムの基本概念を学ぶ講義である。GISソフト基本操作とデータ取り扱い方法を習得することを目的とし、地理情報システム（GIS）基本概念、GISデータ表示方法、基本的なデータ処理方法を演習形式で学習する。

【授業の展開計画】

- 第1回 オリエンテーション(講義計画、評価方法等の説明)
- 第2回 地理情報システム概要
- 第3回 GISソフト基本操作（ソフト及びデータの基本操作法）
- 第4回 ベクトルデータ（ベクトルGISデータの特徴とその操作・表示法）
- 第5回 ラスターデータ（ラスターGISデータの特徴とその操作・表示法）
- 第6回 レイヤー管理（GISデータのオーバーレイ）
- 第7回 主題図1（ベクトルデータの個別値主題図の作成）
- 第8回 マップデータの利用法（マップのレイアウト作成方と画像出力と印刷）
- 第9回 属性情報（属性情報の操作方法及びインポート、属性表の結合）
- 第10回 主題図2（ベクトルデータの段階区分主題図の作成）
- 第11回 主題図3（各種主題図作成と高度利用法）
- 第12回 GISデータの検索（属性値によるベクトルデータの検索）
- 第13回 属性情報の編集（属性フィールドの更新と検索データの保存）
- 第14回 期末レポート作成1（GISデータの総合利用によるレポート作成）
- 第15回 期末レポート作成2（GISデータの総合利用によるレポート作成，提出）

【履修上の注意事項】

情報処理基礎等の情報関連単位を履修済みであること。特に本講義はGISソフトを操作しながら学ぶ形式であるため、毎回出席すること。コンピュータ・ソフトの台数に制約があるためその上限数を越える場合は抽選となる。GISデータを保管する4Gバイト以上のUSBメモリーを準備すること。

【評価方法】

実習形式の講義のため、毎講義時作成或いは処理したデータの提出を課す。また、期末試験としてGISデータを処理して作成するレポートを課す。成績は毎講義時の提出データ（60%）及び期末レポートの内容（40%）を総合して判断する。

【テキスト】

「GIS自習室」古今書院及び補完的にレジュメを配布する。

【参考文献】

“Geographic Information Systems and Science” JOHN WILEY & SONS, LTD/張長平著『空間データ分析』 古今書院/地理情報システム学会編『地理情報科学事典』 朝倉書店

地理情報システム論Ⅱ

担当教員 渡辺 康志

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

本講義は地理情報システム論Ⅰに引き続き、実際にGISソフトを操作し実習形式で地図作成や空間分析などの地理情報システムの基本概念を学ぶ講義である。GISソフト基本操作とデータ取り扱い方法を習得することを目的とし、地理情報システム（GIS）基本概念、GISデータ表示方法、基本的なデータ処理方法を演習形式で学習する。

【授業の展開計画】

- 第1回 オリエンテーション(講義計画、GISソフト基本操作確認)
- 第2回 ラスターデータ作成1 (国土地理院地形図の利用法)
- 第3回 ラスターデータ利用法 (地図投影法設定とモザイク処理)
- 第4回 ラスターデータ作成2 (スキャン地形図, 空中写真の多点ジオリファレンス)
- 第5回 ベクトルデータ作成法1 (ポイントデータの作成法)
- 第6回 ベクトルデータ作成法2 (ラインデータ・ポリゴンの作成法)
- 第7回 GPSデータ取得と利用法
- 第8回 測地系・座標系の変換 (緯度経度と平面直角座標系, 日本測地系と世界測地系)
- 第9回 空間検索1 (空間検索法とマップクリップ)
- 第10回 空間検索2 (バッファオブジェクト・ティーセンポリゴンの作成と空間検索法)
- 第11回 空間操作3 (オーバーレイ検解析とオブジェクト変換)
- 第12回 ネットワークデータと分析法
- 第13回 データの3D表現と分析法
- 第14回 期末レポート作成1 (GISデータの総合利用によるレポート作成)
- 第15回 期末レポート作成2 (GISデータの総合利用によるレポート作成, 提出)

【履修上の注意事項】

地理情報システム論Ⅰを修得済みであること。情報処理基礎等の情報関連単位を履修済みであること。特に本講義はGISソフトを操作しながら学ぶ形式であるため、毎回出席すること。コンピュータ・ソフトの台数に制約があるためその上限数を越える場合は抽選となる。GISデータを保管する4Gバイト以上のUSBメモリーを準備すること。

【評価方法】

実習形式の講義のため、毎講義時作成或いは処理したデータの提出を課す。また、期末試験としてGISデータを処理して作成するレポートを課す。成績は毎講義時の提出データ(60%)及び期末レポートの内容(40%)を総合して判断する。

【テキスト】

「GIS自習室」古今書院及び補完的にレジュメを配布する。

【参考文献】

“Geographic Information Systems and Science” JOHN WILEY & SONS, LTD/張長平著『空間データ分析』 古今書院/地理情報システム学会編『地理情報科学事典』 朝倉書店

島嶼経済論

担当教員 大城 保

配当年次 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

島嶼とは大小の島々を意味する。島嶼の経済そしてその振興・活性化について理解を深めてもらう。

【授業の展開計画】

- 第1週 講義概要及び成績評価基準等の説明
- 第2週 経済とは：システムとしての経済
- 第3週 地域経済1 島嶼とは、島嶼社会とは、島嶼経済とは
- 第4週 地域経済2 国家経済・国際経済／先進経済・後進経済／中央経済・地方経済／経済圏
- 第5週 地域経済3 都市経済・農山漁村経済
- 第6週 地域経済活性化1 意味・内容・要因・形態
- 第7週 地域経済活性化2 経済的イノベーション・社会的イノベーション
- 第8週 地域経済活性化3 主体・文化・土壌
- 第9週 世界の島嶼
- 第10週 日本の島嶼
- 第11週 島嶼：琉球列島
- 第12週 島嶼：沖縄県の経済
- 第13週 離島の経済1 大規模離島
- 第14週 離島の経済2 小規模離島
- 第15週 講義の総括
- 第16週 テスト

【履修上の注意事項】

私語や携帯電話等、他の受講生に迷惑のかかる行為等は自重し、マナーを遵守してもらいたい。

【評価方法】

成績の評価の基準は、出席状況、テスト点数、レポート提出、その他を含め総合的に評価する。受講生の努力を可能な限り評価する方法を考えたい。

【テキスト】

特に決めていない。講義時に資料等を配布する。

【参考文献】

必要なとき、その都度指定する。

都市環境論

担当教員 上江洲 薫

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

本講義では、都市において発生する環境問題を概観する。このような環境問題には、廃棄物問題、大気環境問題、水環境問題、エネルギー問題などの問題が含まれる。講義では、これらの問題を個別に取り上げるだけでなく、問題相互の関連性を検討し、都市環境のマネジメントを考える。

【授業の展開計画】

1. 講義説明
2. 都市と環境の関わり①－都市の変遷
3. 都市と環境の関わり②－都市の環境問題、環境影響
4. 都市と環境の関わり③－都市への集中と交通
5. 都市のエネルギー消費と二酸化炭素の排出①－日本の都市
6. 都市のエネルギー消費と二酸化炭素の排出②－二酸化炭素の削減対策
7. 物質の循環と廃棄物①－循環型社会
8. 物質の循環と廃棄物②－廃棄物の問題と活用
9. 都市と水環境①－都市の水収支
10. 都市と水環境②－水の供給と保全
11. 都市の大気環境と熱環境①－大気汚染の変遷と特徴
12. 都市の大気環境と熱環境②－大気汚染物質とその対策
13. 都市の大気環境と熱環境③－ヒートアイランド現象の特徴
14. 都市の大気環境と熱環境④－ヒートアイランド現象の対策
15. 都市環境の包括的マネジメント－都市環境改善、環境負荷と生活の質
16. 試験

【履修上の注意事項】

途中退席や私語を繰り返す受講生は大きな減点とする。初回の講義から出席を取る。

【評価方法】

成績評価は出席・講義への参加姿勢(30点)や試験(40点)、講義内容に関する感想や作業物の提出(30点)で判断する。

【テキスト】

花木啓祐『都市環境論』(岩波書店)

【参考文献】

福岡義隆・本条毅『都市の風水土 都市環境学入門』(朝倉書店)、田中啓一編『都市環境整備論』(有斐閣)

都市経済論

担当教員 上江洲 薫

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

都市経済学は、都市の発展及び都市構造の形成過程について、理論的な分析によって都市という単位からその経済現象を研究・考察する分野である。本講義では、都市の形成と構造、都市問題、まちづくり、産業集積、空間的システムなどを中心に、身近な都市経済について自分なりに考える力を身に付けることを目的とする。

【授業の展開計画】

1. 講義説明
2. 都市システムの形成と構造
3. 都市化と都市問題
4. 都市の郊外化とエッジ・シティ
5. コンパクトシティの特性とまちづくり
6. 都市経済の空間的内部分化
7. 都市の土地問題とゾーニング
8. 都市経済における土地と住宅
9. 外部不経済とゼロ・エミッション
10. 都市交通の展開と問題
11. 中心性と都市システム
12. 商業空間と商店街
13. 都市観光とまちづくり
14. 工業集積の利益と外部性
15. 技術革新と集積の自生的展開
16. 試験

【履修上の注意事項】

途中退席や私語を繰り返す受講生は大きな減点とする。初回の講義から出席を取る。

【評価方法】

成績評価は出席・講義への参加姿勢(30点)や試験(40点)、講義内容に関する感想や作業物の提出(30点)で判断する。

【テキスト】

指定しない。配布資料を使用(A4ファアイルを用意すること)

【参考文献】

杉浦章介『都市経済論』(岩波書店)。富田和暁・藤井正編『図説 大都市圏』(古今書院)

廃棄物論

担当教員 山川（矢敷） 彩子

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

本講義では、日本における廃棄物に関する歴史、現状、循環利用の現状、海外における廃棄物問題の順に学んでいく。講義を通して日本および世界の廃棄物問題の概要を理解できるようにする。

【授業の展開計画】

講義では基本的に以下の内容を実施するが、講義の順番や内容は変更することがある。

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	日本における廃棄物処理の歴史 (1)
3	日本における廃棄物処理の歴史 (2)
4	日本の物質フロー
5	廃棄物とは
6	循環的な利用の現状 (1)
7	循環的な利用の現状 (2)
8	循環的な利用の現状 (3)
9	一般廃棄物と産業廃棄物
10	廃棄物関連情報 (最終処分場・不法投棄、石綿、PCB、ダイオキシン、越境移動) (1)
11	廃棄物関連情報 (最終処分場・不法投棄、石綿、PCB、ダイオキシン、越境移動) (2)
12	廃棄物関連情報 (最終処分場・不法投棄、石綿、PCB、ダイオキシン、越境移動) (3)
13	海外における廃棄物問題 (1)
14	海外における廃棄物問題 (2)
15	総括、16回目に期末試験
16	

【履修上の注意事項】

登録調整期間の出席状況も評価に反映する。
 欠席理由に関わらず、3分の1以上の欠席は不可となる。
 出席で代筆が明らかとなった場合は不可となる。
 最終年次においても追試は実施しないので気をつけること。

【評価方法】

出席状況、試験およびレポートの内容により総合的に評価する。3分の1以上の欠席、課題の未提出、試験を欠席した学生には単位を与えない。

【テキスト】

環境循環型社会白書 平成21年版(環境省ホームページからも閲覧可能)。

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

ビジネス実務演習

担当教員 砂川徹夫・安井李美子

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考 資格科目

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

本演習では、ビジネス現場の実際を理解すると共に、情報システムの活用技術の習得やビジネスにおける中核を担う人間形成そのものに焦点を当て、現場で役に立つ面接表現（応酬話法）、接客技術、礼儀作法、IT技術等を学習する。”

【授業の展開計画】

1 週目	オフィスワーカーの役割	16 週目	オフィス業務の基本知識
2 週目	聞き方の基本と実際	17 週目	情報技術の基本知識
3 週目	話し方の基本と実際	18 週目	ビジネス文書作成、編集、管理
4 週目	文書表現の基本と実際	19 週目	表計算処理、グラフ作成
5 週目	文書表現の事例検討	20 週目	表計算処理（データ管理）
6 週目	接客マナーの基本と実際	21 週目	グループウェア（情報共有）
7 週目	応対の基本と実際	22 週目	グループウェア（スケジュール管理）
8 週目	礼儀作法の基本と実際	23 週目	インターネット（情報の収集）
9 週目	会社の仕組みと組織	24 週目	インターネット（情報の発信）
10 週目	会社の規律と勤務条件	25 週目	ビジュアルな企画書の作成
11 週目	仕事に対する基本姿勢	26 週目	プレゼンテーション技法
12 週目	ビジネスの実際（1）	27 週目	ビジネス実務課題1（グループ研究）
13 週目	ビジネスの実際（2）	28 週目	ビジネス実務課題2（グループ研究）
14 週目	ビジネスの実際（3）	29 週目	課題発表（グループ発表）
15 週目	前期試験	30 週目	課題発表（グループ発表）

【履修上の注意事項】

課程科目ですので、卒業単位にはなりません。また、登録履修には、4単位4000円の単位料が必要です。

【評価方法】

出席、課題演習、演習レポート提出、プレゼンテーション等を通して総合評価し、80点以上が優、70点以上が良、60点以上が可と評価し単位を与える。”

【テキスト】

実際のビジネス現場で使用されている資料等をもとに、その都度、プリント教材を作成し配布する。

【参考文献】

ファイナンシャルプランニング

担当教員 安藤 由美

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

ファイナンシャル・プランナー（FP）の仕事は、顧客の人生設計に基づいて総合的な資産設計をプランニングし、提案することです。金融機関で仕事する上で、FP知識は不可欠です。また自分の将来設計をする上で重要な知識を、学生の段階で理解しておくことは有益です。FPに必要な6分野の知識を、ポイントを整理しながら学習する。

【授業の展開計画】

- 1 講義の概要・計画
- 2 ライフプランニングと資金計画（1）
- 3 ライフプランニングと資金計画（2）
- 4 リスク管理（1）
- 5 リスク管理（2）
- 6 金融資産運用（1）
- 7 金融資産運用（2）
- 8 タックスプランニング（1）
- 9 タックスプランニング（2）
- 10 不動産（1）
- 11 不動産（2）
- 12 不動産（3）
- 13 相続・事業承継（1）
- 14 相続・事業承継（2）
- 15 相続・事業承継（3）

【履修上の注意事項】

電卓を持参すること。
前回講義の確認として小テストを実施する。

【評価方法】

FP技能士3級程度の試験を実施する。

【テキスト】

ノースアイランド編『わかる!FP技能士3級速攻テキスト〈09-10年版〉』 日本経済新聞出版社 2009

【参考文献】

ノースアイランド編『わかる!FP技能士3級速攻問題集〈09-10年版〉』 日本経済新聞出版社 2009

不動産評価論

担当教員 玉那覇 兼雄

配当年次 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

演習Ⅱ

担当教員 名城 敏

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

演習Ⅱ

担当教員 小川 護

配当年次 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

卒論作成のための調査、卒論中間発表会、卒論作成までを指導する。論文作図にあたってはGISソフト活用を積極的に勧める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	第1回オリエンテーション	17	
2	第2回～第15回まで卒論に関する文献紹介	18	
3	第15回～第28回 卒論中間報告	19	
4	第29回卒論提出、校正、卒論をPDFにする	20	
5	第30回 卒論報告会	21	
6		22	
7		23	
8		24	
9		25	
10		26	
11		27	
12		28	
13		29	
14		30	
15		31	
16			

【履修上の注意事項】

出席を重視するので休まないこと。就活等で欠席する場合にはあらかじめ届けを出すこと。8月に県立糸満青年の家にて、前半総括の卒論中間報告会を実施する。

【評価方法】

ゼミの中での発表状況、出席状況および卒論の内容等で総合的に判断する。

【テキスト】

ゼミの中で適宜紹介する。

【参考文献】

演習Ⅱ

担当教員 呉 錫畢

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

演習Ⅰで習得した知識に基づいて、演習Ⅱでは、実際に足を運んで生のデータによって学問を表現する、つまり、文章を持って知を表現する。具体的には、一例として、環境価値の評価を生のデータを持って調査し、その地域における。環境価値を貨幣で表し、それを各自の視点でまとめていく演習を行う。

【授業の展開計画】

- 1週目：卒業論文とは
- 2週目：卒業論文の作法と技法
- 3週目：環境・経済調査の方法1
- 4週目：環境・経済調査の方法2
- 5週目：参考資料を利用する
- 6週目：沖縄環境問題の課題の調査
- 7週目：環境と地域発展について論ずる 1
- 8週目：環境と地域発展について論ずる 2
- 9週目：調査の報告と討論
- 10週目～15週目：調査の報告と討論
- 16週目：期末テスト（共同討論会）
- 17週目～21週目：夏休み中の調査をグループ別に発表と討論
- 22週目～25週目：討論結果のグループ別資料集作成及び検討
- 26週目～29週目：資料を中心にホームページへの表現技術
- 30～31週目：総括と表現の決算
- 32週目：期末テスト（共同討論会）

【履修上の注意事項】

演習は、自分の問題意識を持つことが大事である。

【評価方法】

発表や討論を参照

【テキスト】

- ①小林・船曳編（1994）、『知の技法』、東京大学出版会。

【参考文献】

- ①植田和弘（1998）、『環境経済学への招待』、丸善ライブラリー。
- ②植田和弘監修（1994）、地球環境キーワード（環境経済学で読み解く）、有斐閣双書。

演習Ⅱ

担当教員 根路銘 もえ子

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

本演習では、演習Ⅰで各自が設定した観光情報およびGIS利用に関するテーマについて、詳細な調査や実装を行い、調査・実装結果に考察を加え、卒業論文をまとめる。

演習の時間は、各自の進捗状況を報告してもらい、調査方法や調査内容について、ゼミ生同士で意見交換や議論する時間とする。

【授業の展開計画】

- (1) テーマに関する情報収集
- (2) 現地調査
- (3) 研究の進捗状況発表
- (4) 卒業論文のまとめ

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席状況、卒業論文の内容により総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは講義時に指定する。

【参考文献】

参考文献は講義時に紹介する。

演習Ⅱ

担当教員 島袋 伊津子

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

演習Ⅰで学んだ知識を基に卒業論文を完成させる。

【授業の展開計画】

前期は卒業論文作成作業を行い、後期は各自の卒業論文作成作業の進捗状況を報告する。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席・宿題・レポート・卒業論文に基づいて総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指示する。

【参考文献】

演習Ⅱ

担当教員 友知 政樹

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

3年次の演習Ⅰで行った予備調査を踏まえ、地域環境政策に関する調査研究を行う。調査研究はゼミ生各自が能動的かつ自由に行い、成果を卒業論文としてまとめ、提出する。

【授業の展開計画】

前期：調査研究の進捗状況に応じ、発表・討論・情報交換を行う。
後期：卒業論文執筆および最終発表を行う。

【履修上の注意事項】

原則として3年次に演習Ⅰ（友知ゼミ）を履修すること。

【評価方法】

ゼミでの取り組み（能動的に参加しているか）と卒業論文とを合わせて評価する。

【テキスト】

必要に応じて紹介する。

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

演習Ⅱ

担当教員 山川（矢敷） 彩子

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

沖縄県はその地理特性上、生物多様性が非常に高い。沖縄県の豊かな自然を目的に訪れる観光客は年々増加しており、持続可能な観光と自然環境の利用が広く叫ばれている。演習では、人間と自然の共存を念頭に、見過ごされがちな海岸生物を対象に、文献調査、聞き取り調査および現地調査等の自然科学的手法でデータを収集する。それらの情報を処理・分析し考察を加えレポートとしてまとめ、科学的かつ客観的な考え方を学ぶ。

【授業の展開計画】

演習は主に以下の5つからなる。

(1) 論文・輪読発表

自然科学に関するエッセイや論文、書籍を順番に読み、レジメを作成し、パワーポイントで発表する。

(2) 海岸生物に関する実習

海岸にどのような生物が生息しているか調べ、生物の役割や体の構造について野外実習と室内実験から学ぶ。実習は週末に集中で実施する。

(3) レポート作成・発表

(1)、(2)の実習後、データを処理・分析し考察を加えレポートとしてまとめる。必要があれば統計処理を行い、科学的かつ客観的なレポート作成を学ぶ。最終的にはレジメ、パワーポイントを用いて発表する。

(4) 卒業研究

(2)、(3)の延長として、卒業研究を実施する。基本的に個人、もしくはグループで実施する。

【履修上の注意事項】

原則として、演習Ⅰについて山川クラスを受講した学生のみ登録を許可する。

また、共通科目の生物学や生態学関連講義を出来る限り受講すること。またレポート作成に際し、様々なデータを加工・分析することになるので、統計関連の講義を学んでおく非常に役に立つ。

【評価方法】

単位取得には、3分の2以上の出席、課題（レポート、レジメ）の提出、およびプレゼンテーションの実施が必須である。評価は、ゼミにおける発言の内容や卒業研究の取り組み状況、レポート、プレゼンテーションの内容により総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

適宜紹介する。

演習Ⅱ

担当教員 新垣 武

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】